
詩イ殺ス。

八田硝子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩イ殺ス。

【Nコード】

N9479H

【作者名】

八田硝子

【あらすじ】

君は知らないだろう。この世界にはある詩^{ウタ}ウタイがいた。あの子の詩は……人を、殺せるんだ。

ウタイコロス・巻

言葉は生きているそうだ

言葉は魂があるそうだ

言葉は凶器になるそうだ

この詩であなたを殺せたら。

【グラデュエーション】

「第二ボタンもらうんだ」とか

「卒業しても一緒に遊ぼう」とか

泣きながら語り合ってる

同級生たちの

隙間を擦り抜けて

あたしは一番に校門を飛び出した

悲しいなんて

これっぽっちも

ああ

今日からここに来なくていいんだ！

先生たちとも

あの人たちとも

会わなくていいんだ！

あたしは三年間でできなかった笑顔で
大声で叫ぶ。

「卒業おめでとう、あたし！」

【本日は晴天也】

雲一つ無い快晴

「落ちていきそうだな」
と言ったら

「吸い込まれそう、でしょ？」
と笑われた

そうかな？

「吸い込まれる」というのは
あの空に上昇していくことで
「落ちていく」とはだいぶ違う

「あ、」と

ふと足を踏み外したらあの空の果て
二度と帰れない

そんな気がするんだ

空に恐怖したことがない君にはわかるまいが

【ことば・あそび〜セカイシ〜】

世界の歴史

世界史

そのほとんどは戦争の歴史

混濁する世界の意志

世界意志

結末はきつと世界の死

世界死

死に向かう世界に捧ぐ詩

世界詩

【死ねばいいのに】

君なんか死んでしまえばいい

君さえいなくなったら

こんな苦しい想いをする事はなかった

毎日会うだけでドキドキしたり

話し掛けるのもひどく困難で

呼吸も困難

拳動は不審

熱でもあるみたいに浮つく脳髓

とにかく君がいるだけで

僕はまともじゃいらなくなるんだ！

ひどい病だ、君のせいだ

君なんか死んでしまえばいい

はやくここからいなくなつて

僕に平穏な生活を返して

【引き金を引くその美しい指先が好き】

目を合わすことすら

許してくれないんだね

そうだね僕は醜いから

そんなに嫌いなら
いつそ殺して

君になら
かまわないんだ

さあこの脳天めがけて
引き金を引いて

「消えろ××××」って

君が初めてかけてくれた言葉で

僕は笑って死ねる

さあこの脳天めがけて
引き金を引いて

「失せろ××××」って

君が初めて殺したのは僕だと

僕は喜んで死ねる

君がその美しい指先で殺してくれるなら

僕は最高の悦楽だって思えるんだ

【EGG】

すべてのものから離れたくて

あたしは殻に閉じこもる

だけど殻なんて

ひどく脆くて

簡単に崩れてしまうの

やめて

殻に開いた穴から

覗かないで

あたしの中を見ないで

あたしはEGG

もはや大人の身体となったというのに
この殻からでることができない

あたしはEGG

CHICKENにすらなれないの

【MAMA、THE SUPER STAR】

ママはね

あなたが小さな頃

それはそれは可愛がったわ

だって小さなあなたは

とても弱いんですもの

気に食わないことがあって

八つ当りにぶっても

ただ泣くだけ

あなたは私なしには生きられないから
何をしてもしすがりついてきたわ

そんなところがとても可愛かった

大きくなって反抗的になって

問題を起こすようになったあなた

ママは先生や近所の人や警察に
たくさん頭を下げたわ

だってそうでしょう？

そうしなければ

「親が悪いから」

って言われてしまうわ

ママのせいにされちゃうわ

「ごめんなさい

こんなふうに育てた覚えは…」

そういつて泣いていれば

皆はママに同情してくれる

仕方がないわよね

あなたが勝手に悪いことをしたのだから

ママは悪くないわ

こんなことを言ったら

あなたは言うのでしょよね

「おまえなんか母親じゃない」

残念ながら

母親よ

何を幻想を抱いているの？

母親は

無償の愛で子供を愛さなければいけない

そう想っているの？

ママはね

神様じゃないの

人間

なのよ

【侵蝕】

あ

あの

わたし

どうやら

すこしずつ

こわれていく

やまいのようで

ほらげんにいまも

このあたまのなかで

きみよくなおとがする

なにかがくずれるおとが

わたしこわれてしまったの

やまいにどんだんおかさされて

すくわれるみちなどみえなくて

ここにいてもがまんできない

ゆがむゆがむせかいがゆがんでいく

だれのせいだれがこんなふうにしたの
おまえだおまえさえいなければわたしは
おまえつてだれけつきよくはわたしでしょ
わたしはわたしをにくみわたしをはかいする
しぬしかないしんでしまえばいいころさなきや
なにがただしいのかわからないだれかたすけてよ
たすけるだれがそんなかちもないにんげんのくせに
ああああああああああああああああああ

【荷物の無い旅】

荷物には
大切なものだけ詰め込んだ

誰かがくれた思い出とか
日々生きていく為の糧とか
誰かと繋がっている為の通信手段とか
行く先を印した地図とか
愛する人の面影とか

「荷物の無い旅」なんて
聞こえはいいけれど
荷物が何も無ければ

のたれ死ぬだけ

わかってる

わかってたのに

どうして自ら荷物を投げ捨ててしまったのだろう

大切なものだったのに

もう荷物は谷の底

取り戻すことはできない

さあいこうか

荷物の無い旅

赤い砂漠

黒い夜空

白い月

倒れた所が終着点

【ヘレン・ケラー】

ママを殴るパパの手
髪を掴んで引き摺ったり
血が飛び散ることもあった
ママを痛め付けるその場面は
同時に私の心もひどく痛め付けた

それならいつそ
この眼球を抉りだして

隣の部屋で繰り広げられる情事

湿った音

喘ぎ声

耳障り

そんなことは余所でやって、ママ
外でパパに出会ってしまうのが怖いのか？
それでもその人とそんなことしたいのか？
気持ち悪い

それならいつそ

この鼓膜を突き破って

「本当のことを正直に言え」と
私に詰め寄るパパ
本当に本当のことを言ったら
「何故今まで黙っていた」と

殴られる

嘘を言ったら

「嘘をつくな」と

殴られる

何を言っても結果は同じ

それならいつそ

この舌を切り取って

ヘレン・ケラー

見えない

聞こえない

話せない

病を克服したあなたは

幸せだったの？

ヘレン・ケラー

私はあなたがうらやましい

病を克服する前のあなたが

【点線にそって丁寧に切り下さい。】

切りてえ。

切りてえ

切りてえ

切りてえんだよ！

手首？

腕？

脚？

そんな甘っちょろいもんじゃねえんだよ！

俺が切りてえのは

てめえらとの「縁」だ！

【僕は優しい人です】

僕は優しい人です

友達が重い荷物を抱えていたら

「半分持ってあげるよ」

笑顔でそう言います

僕は優しい人です

重たいなんて言いません

「平気、平気」

笑顔でそう言えます

僕は優しい人です

でも本当は

人に荷物持たせてんじゃねーよ

僕も荷物抱えてんの

わかる？

わかるよね？

見えてるよね？

ああ、僕のほうから荷物持とうかっていったさ
断れよ

「ごめんね、ありがとう」

じゃねーよ

僕は「友達」への礼儀として言ったんだ
君も礼儀として断れ

礼儀は大事だよな

君を無視して先に進んだりしたら

「あいつは友達にくせに無視した」

なんて言い振らすんだらう

そんなのは御免だ

本当のことを言ったら

偽善者だと蔑むかい？

別にいいよ

そして僕の前から消えてくれ
そしたら荷物が軽くなる

まあそんな日は来ないだろうね
僕は優しい人だから

そんなことは決して言わないし

もし君が僕は偽善者であると気付いても

そ知らぬふりで君は荷物を持たせ続けるだろうから

偽善者の僕と

利用する君

果たしてどちらが「悪」だろうね？

【君は優しい人だ】

君は優しい人だ

僕が重い荷物を抱えていたら

笑顔で半分持つてくれる

君は優しい人だ

文句一つ言わず

笑っていてくれる

だから

僕は

君が

怖い

その笑顔の底で何を考えているの？

誰にでも優しくいい人

その腹にどれだけのどす黒い想いを溜め込んでいるの？

君がそれを爆発させる日が怖い

笑顔でいる人が本当に心から笑っていると

想ってはいけない

【この想い あなたへ】

あなたに会うといつも

こみあげてくる想いがあるの

伝えたい
伝えられない
臆病なハートが邪魔をして

たった一言なのに
もどかしいね
だってこんな気持ち
初めてなんだもの

でも……
もう会えなくなってしまうから……

最後に聞いてください
私の
本当の想い

さあ言おう
まっすぐにあなたの目を見つめ
とびっきりの笑顔で

「てめーうざってんだよ早く死ねこのクソが！」

【シェルター】

雨音が好きだ
マシンガンの音のようだから
この壁の外で
人々が撃ち殺されていればいい

雷も好きだ
大砲を思い起こさせる
この壁の外で
家々が破壊しつくされていればいい

でも晴れ渡った日の夕焼けも好きなんだ
赤い赤い光はまるでミサイルを撃ちこまれたよう
この壁の外で
街が燃やし尽くされていればいい

僕はこの安全なシェルターの中で
世界が終わるのをわくわくしながら待っているのだ

【忘れ物】

ごめんなさい、ママ
ごめんなさい

忘れ物をしてしまった

気付かなかったのよ、ママ

私

産まれてくる時に

ママのお腹のなかに

大事な物を置いてきてしまった

怒鳴らないで、ママ

私だって後悔してる

こんな欠陥品で

産まれてしまった

そんなに責めないで、ママ

でないと

私

ママのお腹にナイフを突き立てて

忘れ物を取りにいかなくちゃ

ならなくなる

お願い、ママ

やめて

お願い

【ICU】

ここはどこなの
目を覆われて何も見えないわ
手足も拘束されているわ
ねえちよつと
誰か答えてよ

やあ目が覚めたかい
ここは病院だよ
君は治療する必要がある

治療？冗談じゃないわ
私のどこが悪いというの
身体のだこも痛くはないわ
ああイライラする
早く離してよ
ストレスが溜まるわ
ストレスは晴らさないと
殴り倒したいわ
私のかわいいお人形
髪を引き抜いたり
ライターで肌を焙つたり

タバコを押しついたり
煮え立った熱湯をかけたり
お風呂場に沈めたり
早くしないと
ストレスでおかしくなる

君

それは人形ではないよ
君の子供だ

君はおかしいんだよ

【絶望ヶ淵】

この世の果て
世界の端っこ
絶望ヶ淵のその縁で
あたしは恐る恐る下を覗き込む

ここから落ちれば

もう誰かに期待しなくていい

何かを欲することもない

病むほどに想うこともない

だけどこの脚は

震えて竦んで動けない

だからあたしは待っている

この背中を押してくれる何かを

恐怖に怯え

吐き気に襲われ

声をあげて泣きながらも

……待っている

【可燃物】

明日月曜だから

燃えるゴミの日

ゴミ箱の中のはあらかじめゴミ袋に入れたからね

台所の三角コーナーの生ゴミも

冷蔵庫の4日前のおかず、もう食べないよね
これも捨てるわ

この試供品ずいぶん前から置きっぱなしだけど、いるの？いらなの？

私に聞かないでよ
あなたがいららないものは
私もいららない

そう、なら捨てるわ

それで
私は？
いるの？いらなの？

私に聞かないでよ
あなたがいららないものは
私もいららない

いらないんだつたら
ちゃんとゴミ袋に入れて
明日の朝出してね

8時だから
遅れないように

忘れちゃダメよ

*

【名付けられた者】

ヒステリックに
苛立ちをこめて
今日もその言葉は
あなたの口から吐き出される

私の名前を呼ばないで

それはまるで

呪いの言葉

私の手足を動けなくする

私の名前を呼ばないで

それはまるで

私を操る糸

私を屈伏させるための

枕詞

私の名前を呼ばないで

それはまるで

死刑の宣告

これから始まる恐ろしいことを
知らせるための合図

この世で最も嫌いな言葉
だけど一生付きまとう言葉

お願いあなたの名簿から
私の名前を消してください

【黒】

汚れてしまったと

一度ついたシミはとれないと

嘆かれるくらいなら

何色にも染まらない

黒になりたい

皆が私を疎んで

私の色を塗り替えようと

否定され続けるのなら

すべての色を侵してしまう

黒でありたい

【知ってる 知らない】

「遊びにいこう」とか

親しげにいうけど

社交辞令

お疲れさま

あたしは知ってる

あなたが影で何いつてるか

あたしは知ってる

あることないこと言いふらして

あたしは知ってる

あたしはあなたの愚痴聞き係

あたしは知ってる

あたしのことも他人に愚痴ってる

結局あたしとは

他人の愚痴吐くために

付き合ってたんでしょ

他人に愚痴吐くための

ネタ作りなんでしょ

現実世界の友達なんて

携帯の文字で綴られた

「友達になりましょう」

快くうけたけど

友達ゴツコ

お疲れさま

あたしは知ってる

本当はあたしにたいして興味無い

あたしは知ってる

いっぱい「友達」つくれば人気者みたいだもんね

あたしは知ってる

「私なんてどうせ」って言った時に

「そんなことないよ」っていつてほしいだけ

あたしは知ってる

かまってチャンがいいおもちゃ見つけただけ

結局あたしは大勢のなかに埋もれた一人

あなたを盛り上げてくれるための演出家団体の一人

仮想世界にも友達なんて

あたしは知らない

友達の温かさ

あたしは知らない
友達との強い繋がり

あたしは知らない
友達の作り方

【私を見て】

ただかまって欲しかった
愛されていると確認したくて
「やつちやいけないコト」
やれるだけやった

「ねえ、私を見て！」

だけど家の皆は
私から目を背けた

私が一番じゃなきゃ嫌だった
勉強でもなんでも
どんな手を使っても
憧れの的になりたかった

「ねえ、私を見て！」

だけどクラスの皆は
私から目を背けた

誰でもいいから注目されたい
街にでて大勢の前で
奇妙な踊りを踊り続ける

「ねえ、私を見て！」

最初のうちは好奇の目で見られた
けどすぐに皆は飽きてきて
疲れて足を止めたら最後

街の皆は
私から目を背けた

疲れ果てて
街のはずれ
一人きりで
鏡を覗く

「ねえ、私を見て！」

だけど鏡の中の私は

私から目を背けた

【螺旋怪談】

あのヒトの遺伝子と

あのヒトの遺伝子で

私が出来ている

恐ろしい話だ

【花盗人】

花は麗し

君は花

手折らば果つる
生命なれど

知りて手折りぬ
我は花盗人

罪にはならぬ
罪にはならぬと

言訳はただ
口に苦し

最期の足掻きに
君が刺しぬ

刺の痛み
治す術も無し

【二進法による弁証法】

0と1しか無い世界
二進法

全か無かの法則

0は常に否定を続け

1は常に肯定を続ける

0 1 1 0 1 0

1 1 0 0 0 1

1 0 1 1 0 0

やりたいことがある。それはとても楽しい
何もしたくない。興味がわからない

人にかまってもらえるところらしい
誰も私にかまわないで

大好きな人たちがいる
みんな大嫌い死んでしまえばいい

二律は常に背反する
しかし同時に存在する

平行線はけして交わらない

0 1 0 0 1 0 1 1 1 0 1 0 1 1 0 1 0 0 0 1 0 1 0 1 0 0 1 0 1 1

【ニュース】

市で女子大生が通り魔に殴り殺されるという…
23歳の息子が52歳の父親を刺殺…

どうでもいい
興味がない

法案が強制的に可決され、野党が…
本日の株価は低迷を続ける…

どうでもいい
興味がない

××動物園にてかわいらしい赤ちゃん…
10回の表、ワールドピッチによる…

どうでもいい
興味がない

僕が見たいニュースは

本日で地球は終わります

それだけ

まだかな？

もう少しだと思っただけど

【同盟】

満天の星空の下

降るような星空の下

僕と彼女は二人きり

同じ事を願ってる

甘い甘い

甘い願いを

「ねえ」

「はやく世界が終わるといいね」

僕らは

恋人じゃない

友人でもない

同盟だ

【極刑】

テレビでは

ヒトを殺したヒトを

殺すかどうかを決める

裁判の結果を待ち受ける

ニュースが流れてる

怖い

あっさりヒトを殺した殺人者が怖い

殺されたヒトの家族の

激しい怒りと悲しみの

感情をこめた言葉が怖い

ありえない理由を

さも真実のように語る

弁護士が怖い

ヒトがヒトを殺す制度が怖い

ヒトが殺されたこと

これから殺されることを

エンターテイメントにする

メディアが怖い

それを

楽しみに観てる人間が

たくさんいるんだらうと

いうことが

怖い

怖い

怖い

【光りさす出口は向こうですほら案内板が】

「大丈夫だよ」

「苦しみは長くは続かないから」

「いつか必ずこの暗闇から抜け出せるから」

本当か？

言ってる自分に疑問符を投げる

君が今欲しがっている言葉を
並べ立てただけ

どこかで聞いたような
ありふれた慰めを
言っただけ

知ってるはずないじゃないか
暗闇から抜け出せるかなんて
この僕が

僕自身
暗闇から
抜け出せてないんだぜ？

【レストラン「真実」】

お待たせしました
ご注文のステーキです

こちらのお肉
すばらしいものです

母牛から産まれ
ミルクをたくさん飲み
愛情深く育てられ
広い牧場でのんびりと
草をはんで生きていたのを

屠殺場で
二酸化炭素によって殺害され
切り刻まれ
肉屋に卸されたものを
熱い熱い鉄板で
血が滴る程度に焼き上げました

おや？

お召し上がりにならない？

もしやお客さまベジタリアンにおなりで？

それではせめて

付け合わせの人参のソテー

こちらだけでも

召し上がってください

こちらの人参

すばらしいものです

肥料たつぷりの畑に種を蒔かれ

餌にしようとする群がる虫たちを

容赦なく抹殺し

花を咲かせその子孫を残す前に

無理矢理引き抜かれ

切り刻まれ

熱い熱い鉄板で

ソテーしたものです

ベジタリアン

素晴らしい思想ですね

植物にも命はあるのですけどね

野菜が育つまでにたくさんのお虫が殺されているのですけどね

植物を殺すことは

動物を殺すことより

罪悪感がわきませんからね

ベジタリアン
誠に素晴らしい思想です

え？

そんなことを言ったら食べられなくなるじゃないか？
鈍感な奴め？

これは心外です
今までそんなことを気にもせずに
食事をなさってきた方に
鈍感と言われるなんてね

【禁断の色彩】

「正しき」「白と

「悪しき」「黒

明度だけが支配する
世界はそう定義されていた

けれど僕は
白の清廉さを嘘臭いと想った
黒の強さにはかなさを感じた

だから僕は
この身を切りつけ
色を創った
鮮明な紅

この味気ない
モノクロの
寂しい世界に
彩りを

白に薄められぬよう
黒に侵されてしまわぬよう
自分の色を保つのだ

紅は
闘う者だけが
その身から創りだせる
色だから

【消費期限に忠実に僕らは創られている】

朝です

おはようございます

今日もまた一日

死へと近付きます

その期限がいつまでなんて
誰にもわからないけれど

着実に一日一日

その日は近付いていきます

もう夜です

おやすみなさい

明日の朝

目は覚めるのでしょうか

【風になんかなんねーぞ、俺は！】

俺の墓の前で

泣くんじゃねエエエエエ！

お経とかやめろ！

俺は仏教なんか
信じちゃいねエ！

戒名代とか払うぐらいなら
生前の俺に金をくれ！

「お前のことは忘れない」
とか言うなアアアアア！
忘れられてエんだよ！
この世から消え去りてエんだよ！
せつかく死んだのに
思い出すとか
勘弁してくれ！

俺が死んだら
俺なんかいなかったと
そう思え！

以上
俺の遺言だ！

【大衆演劇「教室」平日毎日開演】

40人は
演者で観客

この狭い四角い舞台上
僕が演じる役は

「空気」

でしゃばってはならない
いるんだけどいない
そんな役

上手く演じないと
ほら

後ろの席のあいつみたいに

「虫」

「バイ菌」

「うんこ」

そんな役をやらなきゃいけないから

「空気」

上手く演じなくちゃ

降板しても行く場所なんてないんだから

【見えない物が見え聞こえない物が聞こえる私はきつと神】

「幻覚が見える」

「幻聴が聞こえる」

というのが私の病だそうだ

自分じゃよくわからないけど

医者が言うなら

そうなんだろう

だから

今すれ違った男子高生が

私を見て

笑ったのは幻覚

「デーブ！」って言ったのは幻聴

そうなんだろう

だから
私がいっも
鞆に隠し持っている包丁が

彼に刺さっているのも幻覚

彼が悲鳴と呻き声をあげてるのも幻聴

そうなんだろう

ああまったく
病というのは
煩わしいものですね

【Old Machine〜老いぼれマシン〜】

それはもう古いのよ

まともに動きやしないの

壊れてるのよ

修理のしよつもないの

昔はいらなくなったら

山に捨てたそうね

現代にもその制度が

あつたらよかつたのに

維持に手間がかかるから

本当疲れるわ

はやいところ

処分したいんだけど

古ぼけたマシンは

聞こえているのか

いないのか

ただただそこに

存在する

マシンは知っているのかもしれない

いずれ彼女も

同じように

言われるのだと
いうことを

錆付いたマシンは
もう何も
言わないけれど

【ドリーガール】

わたしね
ママの
お人形さんなの

お人形さんだから
毎日
毎日
綺麗な服を
着せてもらえるのよ

今日はパーティーだから
特にママがお気に入り
の一番高いドレスを着るの

皆が口を揃えて言うわ

「まあなんてかわいらしい」

わたしはお人形さんらしく

優雅に微笑むの

でもね

決められた言葉以外はしゃべっちゃダメなの

テープに吹き込まれたみたいに

同じ言葉だけ繰り返すの

だってわたしお人形さんだもの

はしたない言葉や

無知を曝け出すような言葉を

言っではいけないのよ

お人形さんはいつでも

綺麗でおしとやかでいなければならないのよ

守らなければ

ママからひどい折檻をつける

しょうがないのよ

お人形さんは

そうでなくては

いけないの

お人形さんが
文句を言うことは
できないのよ

【此処にいる意味】

真夜中に
君を乗せて
駆け抜ける
死んだように
誰もいない街

「世界中をこんなふうにするの」

楽しげに
眩く君が
しがみつく
背中に伝わる
鼓動と温もり

これこそが僕が
此処にいる意味

コンビニも

眠らぬ家も

街灯も

明かりはみんな

消してしまおう

「この世界を破壊しよう」

真剣に

僕の目を見て

そう告げた

何より尊い

君との約束

それこそが僕が

此処にいる意味

【予定表】

何もすることがない

何かしなければいけない
したくてもできない
何もすることがない

【FIGHT】

他人から見たら
よくある言い争い

相手から見たら
道行く人にちょっと因縁つけたようなもの

だけどあたしにとっては
生きるか死ぬかの決闘なんだ

鎧をつけることも許されない
裸の心と

言葉という名の
剣だけが武器

剣の使い方は
誰より熟知している

どこを攻撃すれば
致命傷を与えられるかも

ただどやっぱりあたしには
闘うことはむいてない
傷つけられる痛みを

誰よりも知っているから
切り掛かるなんてそんなこと
できるはずがない

相手の剣をへし折る
それだけを目指して

闘いはいつも
唐突に終わる

「こんな闘いくだらない」と
相手が投げ出して終わる

血に塗れて
起き上がる気力もない
それでもあたしは
勝利を宣言しなければ
弱くても負けやしないと
見栄を切らなければ

「勝利は我にあり！」

【受験生必見過去頻出問題】

問・あなたが死んだのは誰の（何の）せいでしょう？あてはまるものすべてを選びなさい。

- (ア) 家庭
- (イ) 親
- (ウ) 子供
- (エ) 兄弟
- (オ) 配偶者
- (カ) 恋人
- (キ) 学校
- (ク) 教師
- (ケ) 生徒
- (コ) 友人
- (サ) 社会
- (シ) 会社
- (ス) 政治
- (セ) 政治家
- (ソ) 経済
- (タ) 制度
- (チ) 中国
- (ツ) 韓国
- (テ) 北朝鮮
- (ト) アメリカ
- (ナ) ネットの住人
- (ニ) 思想
- (ヌ) 宗教
- (ネ) 世界
- (ノ) 病
- (ハ) あなた自身

解答はご自分で。

【台風4号は停滞を続け】

「止まない雨はないでしょう?」

「だから落ち込まないで」

は?

聞こえないよ

激しい暴風雨の中

傘は壊れ

合羽も役に立たず

ずぶぬれの私には

聞こえないよ

【厚生労働省よりお知らせ】幸せ資格について【

今年度より

我が国では

「幸せ資格」を取得した方にのみ
国から「幸せ」を与え
「幸せである」と認定します

（資格取得条件）

- ・ 家庭をお持ちの方
- ・ 一定以上の収入のある方
- ・ 心身に異常のない方
- ・ 特定地域にお住まいでない方
- ・ 性癖に異常のない方
- ・ 政府の方針に異論のない方

他にもたくさん条件がございます

パンフレットをよくお読みのうえ

最寄りの政府公共機関にて資格取得なさってください

僕はパンフレットに軽く目をとおすと
ごみ箱に投げ捨てた

なんだ今までと
大差ないじゃないか

【笑顔が素敵なあなたにインタビュー】

いつも素敵な笑顔ですね

いつも穏やかな笑顔ですね

どうしていつも

笑顔でいられるのですか？

ありがとうございます

笑顔の秘訣ですか

それは簡単なこと

あなた方全員を

馬鹿だと思つてことです

所詮あなた方は馬鹿だから

この程度のことしか言えないんだ

この程度のことしかできないんだ

そう思えば自然と

すべてのものに対して

哀れみの笑顔を浮かべられるのです

そうですね

ありがとうございました

何をやっても笑っているから

いじめていて面白いと評判の

Aさんへのインタビューでした

【アヴェ・エ・マリリア】

アヴェ・マリア

後悔はない？

神の子と呼ばれる子を

産んだこと

あなたの子が語った

もつともらしい教えのせいで

他の宗教信者が

「異端者」とたくさん殺された

罪なき人々が

「魔女」と称され殺された

2000年経った今でさえ

その教えをめぐって

争いが絶えない

愛し合う恋人たちさえ

引き離そうとする

ねえその子を産んだことに

後悔はない？

アヴェエ・マリア

【モリノアクマサン】

お嬢さん

お逃げなさい

この「私」は

「現実」は

そこまで来ている

今まで目を

逸らしてきた罰さ

この森にいつまでも

いられると思っただかい？

いつも誰かが守ってくれた
平和な子供時代の森に

お嬢さん

お逃げなさい

その裸足に

茨の刺が傷をつけ

血が流れ出たとしても

捕まりたくは

ないのだろうか？

居心地のいい場所

追い出されたくは

ないのだろうか？

お嬢さん

お逃げなさい

全力で

全力で

でないところからも

楽しくないのだ

お嬢さん

お逃げなさい

ほらほらもうすぐ

手が届くよ

お嬢さん

お逃げなさい

ほうら

つかまえた

【ちいさなさけび】

たすけて

しってる

たすけようがないってことは

【サロメ】

ずっと

ずっと

好きでした

あなたの顔

綺麗な目元

整った鼻筋

魅惑的な口

見ているだけで

本当幸せ

だからあなたと付き合い合えて

とつても

とつても

うれしかった

浮気されても

お金せびられても

一人よがりなHで

ちつとも気持ち良くななくても

あなたの顔が好きだから

全部

全部

許してきた

でもね

そろそろ

疲れちゃった

だから……

素敵よ

瓶の中に入っ
ていても

首から上さ
えあれば

私は満足

キスも

頬摺りも

できないけど

私は見てい
るだけで

幸せだから

大好き

愛してるわ

あなた

の顔

【言葉の自傷】

「死ねばいい」

鏡に向かい

繰り返す

いつかは死ねる

ような気がする

【自殺はしたらいけません。】

自殺はしたらいけません

家族が悲しみます

友人が悲しみます

誰も悲しむ人がいないと思っても

死体を処理する警察とかが

面倒くさくて悲しみます

だからね

誰も悲しまないように

全人類を一瞬で

殺してしまえばいいと思う

ああ

でっかいミサイルが欲しいなあ

【眠り神・死に神】

眠りを司る神・ヒュプノス

死を司る神・タナトス

二人は兄弟

ギリシヤ神話の話

どうにも私は

ヒュプノスに

とことん嫌われて

いるらしい

眠りたくても

眠れず

眠っても

充分でないのに目が覚め

夢をみれば

悪夢ばかり

まったく眠りというのには

苦しめられてばかりいる

そんな冷たい奴なんか

突き放してここへおいで

私はとても優しいよ

君が欲しがっている

安らかな眠りも

その手に余るくらい

あげるから

タナトスの囁きは
いつも甘く
私を誘う

誘惑に
負けそうな私
ヒュプノスがいけない
私を嫌うから

【シグナル】

苦しい

消えたい

死にたい

助けて

誰かが言っていた
自殺する人は
シグナルをだします
それに気付いてあげましょう

なるほど

シグナルか

シグナルをだせば

救われるのだな

シグナル

シグナル

しかしこの

弱々しい音で

光もないシグナルに

気付く人なんて

いるものだろうか

シグナル

シグナル

高く鳴り響かせたくとも

そんな力もないのだ

シグナル

シグナル

雑音に

かき消されてしまった

シグナル

【過疎の町、診療所にて】

先生

オラもうやんたぐなつた

生きでんの

しんどいんだつちや

生きでればいいことあるって

そいつ先生

若げ人達さ言うことだべ

オラ達年寄りさ

なんの未来もねんだがら

んだがら先生

はやく殺すてけらいん

先生

おねげします

先生

おねげします

先生……

【メーデー・メイデー】

本日も

サービス残業

サービス業に

ついた覚えは

ないんだけどな

毎日こうだよ

上に訴えたいけど

そんなことしたら

左遷かクビか

あーあ

となりのデスクの奴

上司に直訴しにいかないかな

ゴールデンウィーク？

何それ？

どこの国の話？

今日も仕事ですよ

連休って何？

食べられるの？

いつでもこうだよ

実害でもなきや

働かせすぎだつて

わからないのかな

あーあ

となりのデスクの奴

過労死しないかな

うちの会社

業績はそこそこ

そりゃそうさ

僕らがまじめに働いてるから

まじめですとも

となりのデスクの奴が

死んでもかまわないってくらい

まじめに働いてますよ

【なりたいもの なれるもの】

なりたいものと

なれるものは

なかなか一致

しないもの

例えば

学芸会の劇の役

クラスの委員

大人になった時の職業

なりたいものに

なれなくても
がまんしなくちゃ
いけない

僕は君が上にいくための
はしごになりたかった

君が新しい世界の
扉を開くための
鍵になりたかった

暗い道に行く君の
明かりになりたかった

でも
なれなくて

ごめんね
こっやって
君が首を吊るための
踏み台にしかなれない

僕は無力だ

僕は無力だ

【ノースラッシュ】

ひどく痛いのがいいと思った

「生きている」と確認するため

痛みが長引けばいいと思った

「生きている」と忘れないため

この傷は

闘いの跡

誇れはしない

でも私の歴史

「生きていてもいい」と

あなたが許可をくれたから

もう闘わなくていい

鉄の臭いに

むせかえることもない

この傷は

いつか痛かった傷

だけどもう

痛まない傷

【過去も未来もあたしたちは手をとって】

ねえ

なんであたしたち

こんなに気が

合うんだろーね？

きつとあたしたちさ

前世でも一緒だったんだよ

これからも仲良くしよーね

ねえ

なんであたしたち

一緒にいるの

みんな反対

するのかなあ

あたしたち

間違っただことなんて

してないよね

お互いに好き同士なだけ

悪くなんてないよね

今の世界に

あたしたちがいる場所

ないのかなあ

ねえ

あたしたちさ

こうするしか

なかったんだよね

だって今の世界には

いられないんだもん

未来ならきつと

一緒にいられるよ

ここは高くて

いい眺めだね

怖くなんか

全然ないよ

だってあたしたち

来世でまた

会えるもんね

じゃあ

そろそろいこつか

いち

にいの

さんっ

【椿】

椿

椿

君が好きだった花

椿

綺麗な姿を保ったまま
地面に落ちて
そこを真っ赤に染める

ああ君は

椿になったんだね

【用法・用量を守って正しくご服用ください】

君は不思議だね

僕が落ち込んでいる時でも

君がいると明るくなれる

まるで僕の調子を良くしてくれる

薬みたいだね

どこ行つてたの？

僕の傍を離れないで

君がいないと

僕はダメなんだ

体が薬に慣れて

効き目が弱くなってる

もっともつと

君が欲しい

もうダメだ

欲しても

欲しても

君が足りない

縛り付けて

閉じ込めて

僕の中に取り込んでいるのに

足りない
足りない
足りない
足りないんだよ！
もっと君を
もっと君を
もっと君を

薬は
処方通りに飲まないと
命に関わることもある

OVER DOSE

GAME OVER

【上手な部屋の片付け方】

お部屋が片付けられないとお嘆きのあなた
ちょっとしたコツでお部屋は綺麗になります
そう、それはとても簡単なこと

「いらないものから捨てていく」

この心がけが大事なのです

え

そんな

私を一番最初に捨てたら
後は誰が片付けるんです？

【なりたいなあ　なれるかなあ】

ヒトは死んだら
何になる？

お星さま

天使

仏

魂

幽霊

千の風

死体

骨

死んだら何にもならないと言っが

死んだら何かにはなるもんだ

【一匹狼】

オレは一匹狼なんだ

群れて生きるなんてごめんだね

一人きりで生きるんだ

他人に頼ったりしないぜ

狼は本来

群れで生きるもの

もし一匹でいる狼がいたら

そいつは群れを追い出された
負け犬ならぬ負け狼
その末路は
他の狼たちに殺されるか
餌が獲れなくて飢え死にだって

二つ名は

「一匹狼」

まったく君には
似合っているよね

【サツちゃん】

自分の名前が嫌いだった

サチコ

高確率で「サツちゃん」と呼ばれた

高確率で童謡「サツちゃん」を歌われた

私はあの歌が大嫌いだ

「ぼくのことわすれてしまっただろ」って

薄情者って言われてる気がする

私は

私はみんなのこと
忘れてないのに

みんなが私を
忘れていくんだ

みんなが薄情者なんだ

もう私を

サツちゃんて呼ぶ人はいない

サツちゃんはね

忘れてないんだ

ほんとはね

だけどみんなが

私を忘れてしまっただよ

悲しいな

サツちゃん

【バッドコミュニケーション】

文句がある時だけ

話すのをやめて

そうしたら

もう二度と

口をきかなくなるのか

【狂った世界】

親が子を殺し

子が親を殺し

先生は生徒に淫行

政治家はひっそり金儲け

あの国はまったく反省なし

おかしいね

世界は

狂ってる

変な事

ばかりだ

うん

だからだよ

この僕が

君なんか

好きになったの

おかしいよね

世界は

狂ってるよね

【マエムキ】

多くの人は

「人は前向きでなくてはいけない」と
前だけを見ようとして
生きている

ねえ

「前向き」なんて
辛い信仰は
およしなさい

後ろを向いた者にしか
見えぬ景色もあるのだ

後ろを向いた者にしか
見つけられぬ物もあるのだ

同じく後ろを向いていた人が

笑いかけてくれた

後ろを向いた者にしか
できない絆もあるのだ

「前向き」信者に

理解できないだろうが
君たちに

否定される気もないのだ

【がんばれ】

「がんばりなさい」

それが

「死になさい」

に聞こえるとは

思いもしないのだろうか

【呪い】

あなた私に
不快なことを
しましたね

呪いますよ
絶対効くまで
呪いますよ

死ねなんて
いいません

ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！
ハゲろ！

ちよつとかつこいい感じでなく
みつともなくハゲろ！

無駄な努力して
バーコードみたいな
変な頭になれ！

私怒らすと
怖いですよ
呪いますよ

ちなみに女なら
「太れ！」です

【W】

笑うなよ

私に向けられる笑顔は
喜びの笑みじゃない
「おもしろい」という
賛辞の笑みじゃない

侮蔑や
偏見をこめた
嘲り

「w」

笑うなよ

おまえに人を笑える程の
器があると思うのか
そんな考えこそ
笑えるね

w

【安易な約束ならいらぬ】

ずっと離さないよって

いったじゃない

どうして一人で

いじつとするの

約束は

守られなければいけない

あなたの手首を

切り離して
この手にしっかり
握りしめた

日を追うことに
ぐずぐずと
握った手は
崩れていくけど

約束は
守られなければいけないのよ

【流浪の旅人砂漠に行く】

熱い砂に
ぬかる足
必死で動かすけれど
進んでいるのか
足踏みをしているのか
見えるのは
地平線ばかり

戻った方が
いいものかと

振り返れば
やっぱり地平線

僕は何をしているのだろう
こんな何もない場所で
一人きり
藻掻いてる

なんだか馬鹿らしくなってきた

全部

全部

止めちまおうぜ

荷物投げ出して
座り込んで
ちよつと水飲んで
一息ついて

見上げたら
空が綺麗なのに
気付いたりして

【生きる価値を】

「生きる価値のない生き物」
は、いないらしい

ということとは

私は世界初の

「生きる価値の無い生き物」
ということになる

皆、崇めたまえ

【どろぶつってかわいそう】

何も悪いことなんて

していないのに

日々命の危機

ぼんやりしてたら

あっという間に

肉食動物の餌食

草食動物ってかわいそう

テレビに映る

狩りの画像

「キヤー！逃げて逃げて！」

応援されるのは

草食動物ばかり

肉食動物だつて

生きるために必死なのに

今日その狩りが失敗したら

餓死してしまうかもしれないのに

肉食動物つてかわいそう

テレビを眺めながら

「野性の世界は厳しいね」

なんて

のんきに語ってる

今もどこかで

人間同士

殺しあってるのにね

明日は我が身なんて

気付きもしない

ああ人間つて

本当かわいそう

【同情してほしいわけじゃない、理解してほしい】

説明しても

説明しても

理解してもらえない

言葉が通じていないんですか

私は私の知らぬ間に

異界の言葉を語っているんですか

あなたにもわかるように

説明するには

頭を割って

脳を引きずりだして

「ほら、ここがおかしいんです」

そういつて指し示さなければ

いけませんか？

【人間シチュウ】

湯槽に浸かり
考える

ふむ
生きるのが面倒だ

目の端に映った
カビ取り剤の
「まぜるな危険」

ふむ
硫化水素か
しかしあれは
流行にのっているようで
気にくわん
大体発生法がわからん

練炭も
今となつては
古くさい気がする

どうせなら
目新しいのがいい
湯の温度が
少し熱いな

ふむ
「人間シチュー」という
都市伝説があるな

あれを実行したら
おもしろいのではないか

人間シチュー
にんじん

人間シチュー
たまねぎ

人間シチュー
じゃがいも

人間シチュー
俺

いいフレーズができた
俺が死んだ暁には
誰か歌ってくれ
幼稚園で
楽しく踊りながら
歌ってくれ
子供たち

ふむ
風呂が熱い

あがるか

【震度5】

地面が揺らいだ

俺を殺す気か

腹が立つたから

地球にナイフを刺した

平気な顔してた

強がるなよ

痛いくせに

【遺書ではありません 他殺の証明書です】

私は死にます

でも自殺ではありません

学校みんなは私が生きること遮りました

先生に相談しました

いじめがあるなんて学校の名前に傷が付くと
無かったことにされました

親に相談しました

興味を持ってもらえませんでした

もしかしたら他にも相談する場があるのかもしれない

でもまた私の叫びを切り捨てられるのが怖い

だから死にます

自殺ではありません

みんなに殺されるのです

これは他殺です

さようなら、殺されます

【流れ星に願いを込めて】

「あ、流れ星！」

彼女は僕の隣で

真剣な顔で祈ってる

…流れ星は

本当は宇宙の塵やなんか
燃えているだけだから

願い事なんて

叶えてくれるわけないと思うけど

もし本当に

願いが叶うなら

隣で真剣に祈ってる彼女の

願いを叶えてあげて

なんて祈ってみる

「…なんて願ったの？」

「決まってるでしょ？」

『地球に落ちて人類滅亡させてください』よ

うん、まあ

そんなところだろうとは思った

塵だつてことは
言わないほうがいいな

【リサイクル反対!】

Q .

生まれ変わったら何になりたい？

A .

また生きる苦しみを味わえというのが
冗談はよしてくれ
魂は使い捨てにすべきだ

【神々の手】

暗闇に

怯えるあたし

だけでもっと恐ろしいのは

上から差し伸べられる

無数の神々の手

あなたを救ってあげましょう

にこやかにその手を
差し伸べてくるけど
あたしは必死で
振り払う

その手を握れば
暗闇から救い出してくれるかもしれない
しかしその代償に
あたしは神々の思想に侵される

神の言いなりになるあたしは
もはやあたしではないだろう

暗闇は恐ろしい
でも

あたしがあたしでなくなるのは
もっと恐ろしい

【本当に理解し合えるなんて日はこない】

中国と日本が理解し合える日がくるかって？

無い無い無い無い

日本人同士だつて理解し合えないんだから

同じ人間同士なんだから理解し合えるつて？

無い無い無い無い

だつて僕は僕自身とすら

理解し合えないんだぜ？

君は君自身を

理解できてるかい？

【己が不必要であると痛感した時人体のあらゆる活動は停止する。】

泣くのも億劫。

【成功と努力】

成功者は高らかに語る

努力をしなさい

努力すれば必ず夢は叶う

ほら、この私がそうなように

たしかに彼の成功は
努力の末に得たもの

しかし彼は知らない

彼の成功はたくさん

「努力したが叶わなかった」者の
死体の上に立っていることを

いるのです

その足元に

踏み躪られても

何も言えないのです

努力が報われなかったなんて
悲しくて言えないのです

だから人は信じてしまう

努力すれば必ず夢は叶うと

その意見しか聞こえてこないから

叶わなかった人の沈黙には
気付かないものだから

【先にいくあなたへ 後からいきます】

大好きな人が死にました

ありがとう

死ぬ楽しみが増えました

【老いらくの「オイ！」】

政治家の若造

街の真ん中で

「明るい未来を作ります！」

やかましいわ

老い先短いワシ等には

明るい未来より

明るい今じゃ

明るい今を謳歌するため

これから彼女と

楽しい逢引き

「年金から天引きされて…」

なんて

色気の無い話はしとうない

まあせいぜいがんばって

「明るい未来」作るんじゃない

子供が減る一方なのに

そんな未来はくるのかのう

どうせ関係ない話じゃがな

老い先短いワシ等にはな

【腐敗臭】

あなたが笑いながら
刺したこの傷
痛まないふりているけど

中の方から
膿んでいく
細胞が
腐り始める

悪臭がする
腐る時はいつも
こんな臭いがする

だけど私も
笑っている
傷付けられたことにも気付かない
患者を演じてる

さあ愚かだと
見下しなさい
気を抜いたその瞬間
私はあなたを刺し返す

内側から
ぐちゃぐちゃに
腐っていく痛み
あなたも味わえばいい

悪臭が、ひどくなる

【欲シガリマセン】

何かを欲するのをやめました
手に入らないものが多すぎるから

欲しいと願えば願うほど
手に入らないことが辛いから

手に入れるために努力しても
報われないのが悲しいから

欲しがらなくなってから
私の手のひらに
悲しみは残らなくなりました

けれど
美しいものも何一つ
残らなくなりました

【選択死】

自殺は

死を「選んだ」わけではないのです

死に「追い込まれた」結果なのです

【酷い人】

こんな苦しみばかりの世界に

まだ居るといいますか

酷い人だ

あなたが必要だなんていうから

ここに居なくてはいけないじゃないですか

酷い人だ

本当に

酷い人だ

【帰りたい場所】

帰りたい

いつもそう想っていた
家にいても
部屋にいても
想いはやまなかった

結局

私が帰りたいかったのは
産まれる前の
母の胎内

羊水という名の
母の体液に包まれ
あの頃はとても
穏やかだった

今

私は
母の血液に塗れて
とても穏やかな気持ちです

あの頃に
帰った想いです

【原初の言葉】

ヒトが初めて作った「言葉」は
なんだったのだろう

こんにちは？
愛しています？

いやきつともつと
伝えなければ命に関わる
そんな言葉から
作られたはず

ああ
ヒトが初めて作った言葉は
「助けて」

だったのではないか

原初の言葉を今も
叫び続ける私

【嗚呼美しき世界】

「あなたの目には
こんなふうには
世界が醜くみえるの？」

違うよ

世界があんまり美しいから

嫉ましくて

粗捜しして

汚い所指摘して

笑ってるんだ

醜いのは私なんだ

【フラッシュ・バック】

それは突然
理由もなく起きる

脳の回線が
勝手に繋がる

思い出したくない

あの場面
あの音声

リプレイ
リプレイ
リプレイ
リプレイ
リプレイ
エンドレス

やめて

誰か
脳のどこを削ったら
この回線を切れるのか
教えて

【天才イクス氏の非情なる計画】

天才イクス氏
頭ひねらせた
どうしたら人間を
滅亡させられる？

天才イクス氏
華麗なる指さばき
天才イクス氏
すばらしいコンピュータ

天才イクス氏
計算をした
計画が遂行できるまで
何年かかるか

天才イクス氏
計画は完璧

天才イクス氏
さあ滅びろ人間ども

天才イクス氏
愕然とした

コンピュータの答え

イクス氏がしなくても

まもなく勝手に人間は滅びる

天才イクス氏

気力を無くした

天才イクス氏

崖から飛び降りた

天才イクス氏

かわいそうな人

天才イクス氏

自殺しなくてもすぐに死んだのに

【呼吸】

息が

うまく

できない

地上の

呼吸法が

合わない

帰して

海に

帰して

【籠の中の鳥は】

ぴい
ぴい
ぴい

籠の鳥

籠から出せと
鳴いている

空に帰せと
泣いている

憐れな
憐れな
小鳥ちゃん

なくても無駄だよ
籠からでて

翼はとうに
折っている

【闇の向こうに 君】

くだらない授業
くだらない同級生
くだらない学生生活の中で

ただ君だけが
美しかった

ただ君だけが
眩しかった

落書きだらけのノートの片隅に
君

くだらない生活
くだらない人生
くだらない世界に飽きて

この世界を
見限った

この世界を
出ていくのを決めた

耳元で騒いでいるのは
母親……か？

うるさい
俺が最期の別れをするのは
彼女だけなんだ

薄れゆく意識の彼方に
君

最期に呟いた名前は
君

ウタイコロス・忒

「詩イ殺シテサシアゲマス」

街外れの貼り紙を

見て集まった彼らの目は

酷く荒んでいる

…と想っていた

私を見つめる彼らの目には

期待と

安らぎが

満ち溢れていた

ああ

死を望む彼らには

殺してくれる者は

神にも等しいのだ

人は神にはなれない

しかし私は

神を演じねばならない

私はゆっくと

詩を詩い始めた

穏やかな

彼らの表情

私は彼らを

殺さねばならない

私は彼らの

神であらねばならない

人が神になれるはずがない

【名を呼ぶ】

名を呼ぶ

名を呼ぶ

名を呼ぶ

名を呼ぶ

返事はこない

もう此処にいないひと

【あなたへの恐怖】

当然みたいに
馬鹿にして

見下して
罵るんですね

近寄らないでください
怖いのです

あなたが怖いではありません

あなたを殺してしまいそうな
自分が怖いのです

この詩は本日里帰り中の親愛なる姉上に捧げます

【ボイス】

他人との

コミュニケーションは
不必要だ

だからあたしは
声を売り飛ばした
どうせ使わないと
いらないと

迂闊だった
声は

泣き叫ぶためにもあるのだ

心の内にのたうち回る
狂おしい感情を
吐き出したくて
喉を掻きむしるけど

口から出るのは
かすかな空気の漏れる音

感情は
行き場を無くして
あたしの内を
焼き焦がす

【病の差】

若くして亡くなった方がいると
皆は「かわいそう」と同情する

そうだね確かにかわいそう

だけど若くして自殺したりすると

「命を粗末にする奴は馬鹿」

「死にたい奴は死ね」

「死ぬ度胸があるなら生きる」

あれ？

体を病んで死ぬこと

心を病んで死ぬこと

どちらも病んで死んでるのに

この扱いの差は何かね？

どちらも病と闘って闘って

その末での死ではないのかな？

【夢を、見た】

君が死ぬ
夢を見た

正夢だったらよかったのに

それにしても
大笑いしながら目が覚めたのは
初めてだな

ふ
あは
あははははははははは

【ユーロー】

死神は
まじめで
仕事熱心でなければ
つとまらないのさ

ほら見てごらん
今日のニュースも
彼の活躍ばかり
放送してる

ヒーローってのは
彼みたいなのを言うのさ

【君なんか愛さない】

君なんか愛さないんだから

尻尾を振っても無駄なんだから

ふわふわしてても無駄なんだから

くくんくもないても無駄なんだから

丸い目で見上げてても無駄なんだから

かわいくても無駄なんだから

私は君なんか愛さないんだから

あの仔の代わりは
いないんだから

【指切り】

約束だよ
指切り

約束やぶったね
指切るからね

なんだかんだで
集まった
指の数は
百を越えた

ずいぶん嘘を
つかれたものだ

斯く言う私の指も
残すところあと二本

私も相当
嘘つきなのだ

どれかつけてみようかな

【私は生きている】

傷口が
痛い

生きている

私は生きている

死んでいない

涙が出る

うれしいのか

悲しいのか

わからない

私は生きている

うれしいの？

【耳鳴ヶ丘】

こんな騒がしい雑音の中では
君の声が聞こえない

耳の中で鳴り響く音

あれは救急車の音

あれはパトカーの音

あれは遮断機の音

あれは爆撃機の音

あれは誰かの叫び声

鼓膜が破れそうなほど

激しい

音

音

音

聞こえるはずが無い

音

……耳鳴り

こんなにうるさくては
君の声が聞こえないよ

【ここにいます。】

生きる意味がまったくもってわかりません

さりとて

死ぬ意味もまたちっともわからないのです

だから私は
ここにいます

どこにもなく
ここにいます

【お姫さまの憂鬱】

あたし

お姫さまなの

みいんなあたしの言いなりよ

お父さまだってあたしにはかなわないんだから

ちよつと

そこの醜い生きもの

おお

なんて醜い

恐ろしいわ

ねええ

お父さま

あの醜い生きものの

首をはねてくださいな

汚らわしい

それにしても

お城の中の暮らしは退屈

この白い部屋から

一歩も外に出れないのだもの

「大事なものには鍵をかけなければいけないんだよ」って

手足に鍵をかけられているのだもの

面倒なことはみな

召使いどもがしてくれるけど

お城の生活はつまらないわ

お姫さまって大変だわ

【白】

偉そうに

ふんぞり返って

「私は正しい」

そればかり繰り返す

白

あなたが正しいというのなら

汚れた手は

どこに切り捨ててきたのです？

汚れて抉った皮膚は
どこに隠しているのです？

正しくあるために
汚いところを削っていった
あなたの体は
醜く歪んで

それでもあなたは正しいと言う
世界もそれを正しいと認める

この世界は
歪んだ正しさが支配する

歪んだ白が支配する

【鳥】

鳥よなくな
嘆けども

お前の可愛い
七ツの子は

もはや人の手に
潰された

可哀想

可哀想と

鳥はなくの

悲し

悲しと

なくのだよ

山の古巢へ

お帰り鳥

街じゃあお前は

忌まわしき

厄介者と

呼ばれるだけ

【羽化】

ああ

あの子はもうすぐ

背中が割れて
美しい翅が
生えてくるよ

きつと綺麗な
蝶になる

翅を手折ったら
楽しいよ

【君を守る】

「君を守る」なんて
そんな力もないくせに

これで何人目だろうね

目の前から
泣いて逃げた奴

目の前で

死んでいった奴

守り切れる力が無いなら

そんな約束はするんじゃない

もっとも同情しなくもない

彼らだって思わなかったろう

守っているはずのその背中を

あたしに刺されるなんてことは

最大の敵は

あたしなんだよ

【絶唱】

建物もろとも

地に叩きつけられた

恐怖の歌声

あ

あ

あ

救い無き地面から
それでも助け求め叫ぶ
悲しみの歌声

あ

あ

あ

天へのぼれと
願う歌声じゃかなわない
地の底からの
絶望の歌声

あ

あ

あ

命の

絶唱

【独りじゃないって素敵だね】

君は独りじゃないよ

世界中に

「自分は独りきりだ」
と想ってる人は
大勢いるから

君は独りじゃない

ま

こんなこと言っただって
聞きやしないから

君は独りなんだろうね

【ハッピー・バースデー】

泣かせてください
泣かせてください

今

私は
生きるという苦しみを
与えられた

泣かせてください

おめでとう
おめでとう

私をこの苦界に
引きずりだした者達が
仲間が増えたのを
喜んでいる

泣かせてください

生きるのが怖いのが

#

【廃墟情歌】

あなたはまだ待ち続けているの？

昔ここに居たヒトを

もうこんなにボロボロなのに

屋根は崩れ

柱は折れ

壁は剥がれているというのに

まだそのヒトを待つのか？

壊れた窓硝子や椅子や食器

大事そうに抱えても

もうそれは使えないんだよ

まだそのヒトを待つのか？

もしそのヒトが帰ってきたら

その時はきつと

……あなたが崩される時よ

それでもそのヒトを待つのか？

がたん
と音をたてて
天井板が一枚落ちた

……そう

私は尊敬するわ
あなたのその待ち続ける想いを

【信じられるもの】

「あなたは神を信じますか？」

そうだねえ
少なくとも

「神は存在するのです」

「神はあなたを救うのです」

「だから寄付をください」

なんて言う
あなたがたよりは
よっぽど信じられると思うよ

【グッド・モーニング】

目覚まし時計が
悲鳴をあげたので
朝がやってきた

騒がしく喚く時計を
私は殺した

うるさい
お前のせいで
また一日が始まってしまったじゃないか

【天国までダッシュして】

私は天国に行きたい

だから生きているうちは
いいことをするの

それでね
天国に行ったら

「人間なんて中途半端なもん創りやがって!」

って

神様に

ドロップキックかますの

待っててね

神様

【明日の風】

明日は

明日の

風が吹く

それって実は

「明日は明日で苦難はくる」

ってことじゃないのか？

此処は

立っているのも

苦しいほど

いつも強風ばかり

吹き付ける場所

【偽薬】

「この薬は効くんだ」

そう思い込めば

たとえなんの効果もない薬でも
病が改善することがあるらしい

なるほど

だからか

私がいくら薬を飲んでも
一向に良くならないのは

薬を信じて
いないからだ

信仰心が
無いからだ

【花火】

どおん

どおん

花火

綺麗だね

この体に

ダイナマイト括り付けて
空に投げ上げたら

私の肉片は

あんな風に

綺麗に飛び散るかしら

どおん

綺麗だね

【リビング・デッド】

横たわったまま
身動きできない

今日も世間様は
忙しく働いてらっしゃるのに

私はベッドから
動けない

体が悪い
わけじゃない

だけど体は
動かない

これは
永遠の

長期休暇

私は

生きている

死体

【雨】

傘は

ささないでいよう

雨に

撃たれて死にたい

蜂の巣にされた体が
下水に流されていく

頬を伝うのは

雨？

血？

涙？

【イニシャルG】

私

ゴの字がつく虫です
ヒトからは
害虫っていわれます

私だって

一生懸命生きているのに

「害」だなんて

ひどいです

いるだけで

邪魔なんです

存在すら

許されないんです

思い上がらないでください

私たちの歴史は

あなた達ヒトより

ずっと長いんですよ

ああ！

ごめんなさい！

ぶたないで！
ごめんなさい！

ああ

白い内臓が

はみだしてしまいました

でも平気です

動けません

私たちの生命力

なめないでください

這いずつたら

体液で

床が濡れました

ヒトが

ぎゃあぎゃあ

騒いでいます

自分が招いた結果でしょうに

ヒトとは不可解なものです

こんなことを言いましたが

私たち本当は

ヒトに感謝してるんです

おいしい残飯

残してくれたり
一年中暖かい場所を
用意してくれたり

私たちが生きているのは
あなた達ヒトのおかげです

ありがとう
本当に
ありがとう

【うん、じゃあそうする。】

そんなに私に
言うことを聞かせたいのなら
私の言うことを
聞かないのなら

私そつくりのロボットでも作って
私の代わりに置いとけば？

私には私の

意見がある

意志がある

文句も言うし

逆らってもする

私は

人間だから

それが気に喰わないのなら
どうぞ鉄屑の寄せ集めとでも
仲良くしてくださいな
けしてあなたに逆らわない
鉄屑人形と

【無意味愛】

私は

意味の無い存在だ
否定しないで頂戴

蝶の翅の脆さに

深海魚の奇怪な造形に

勿忘草の青に

あなたへの想いに

どれだけの意味があらう

私は無意味だ

そして

無意味を愛す

【スウィート・ジョーク】

スウィート

スウィート

ブラック

ジョーク

君が死んだのは僕のせいなんて

君を殺したのは僕だなんて

なんて

甘やかな

甘やかな

冗談

本当にしたくて
しかたない

【イシ】

トパーズ

黄玉の月が昇った

ラピスラズリ

瑠璃の夜空の下

クリスタル

水晶の眼鏡の向こう側

君の目は紅く

ジエイド

翡翠の森に落ちた

ブラックパール

黒真珠の影に染まり

ムーンストーン

月長石の涙流した

君の悲しみは

きつと誰も気付かない

まだ光らない

君のイシ

きつと僕しかわからない

闇の色した

君のイシ

ルビー

紅玉の日が昇った
サファイア

青玉の青空の下

ダイヤモンド

金剛石の光よりも

君の輝くイシ

【来るものは拒まぬし去るものは追わぬが】

どうせ

糞みたいな言葉しか

吐かない奴だと

そう思ってるんだろ

居なくなるなら

早くしろ

嫌々居られても

不愉快だ

行くのか

なら最後に

一つ聞きたい

居なくなるなら
なぜ来たりした
端から来なければ

期待なんか
しなかつた
ずっと傍に
居てくれると

【夜行性の目】

夜の暗闇に
生きる僕たち

光り差す地に住むものには
蔑まれる運命

だけど
見ている

いつかその太陽が

破壊されたその時
暗黒世界で動けるのは
僕ら夜行性のもの

暗闇に目を慣らせ
その日が来るのを
じっと待つ

憧れてやまない
すべてのものが
暗黒にそまる日

【破裂】

やりきれぬ想いは
いつだって
頭の中を暴走し
やがて膨らみ
破裂する

どなたか
飛び散った脳髓を
拾っては

いただけませんか

【病ミ人知ラズ】

闇に病んで

夢は地獄を

駆け巡る

【慰めなど】

最初からうまくできる人はいない

誰でも失敗はするものだ

わかっているぞ
確かにそう

ただ僕は
自分の存在が嫌になる！

【欲しい言葉】

わかったような
優しい易しいやさしい言葉

心を救うとか語る
安い易いやスイキレイゴト

そんなのはいらなんだ

この心を突き殺す
鋭い言葉が欲しい

##

【真贋】

嘘

偽り

上っ面

そんなのに騙されて
喜んでりゃあいい

本物があっても
見向きやしねえ

自尊心ばかり高い
へボ鑑定士ども

お前等にはあ目がねえんだよ

人間の真贋を見る目がよお

【許可】

この目を潰したら
許してくれますか？

この爪を剥いたら
許してくれますか？

この舌を抜いたら
許してくれますか？

この骨を折ったら
許してくれますか？

どうしても

許されない存在

【がんばらないと】

がんばらないといけない

私は他人より
出来が悪いのだから

がんばらないといけない

他人の半分しか能力が無いのなら
他人の倍働かなければいけない

他人がこれで一苦勞と思うものを
倍味わわなければいけない

そうでないと

人並みにはなれないのだから

他人より劣るものは

がんばらないといけないのだから

がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと

助けて？

助けてなんて言うてはいけない

甘えるなど言われるから

限界だっ感じて

それは甘えだと言われるから

がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
がんばらないとがんばらないとがんばらないとがんばらないと
とがんばらないと

助けて

【いつものこと】

ピーポー
ピーポー
ピーポー

救急車

「おい」

「お迎えだぜ」

意地悪な声

いつものこと

「ほつといて」

これもいつものこと

全部私の

頭の中だけの出来事

【世界平和】

なんでも願いを叶えてくれる

そういつから

世界平和を願ってみた

願いは叶えられた

世界中の

すべての生き物が

消えたのだ

誰もいなければ

平和なんだ

誰かがいる限り

平和なんてこないんだ

【本音】

死にたくなんか

ないよ

今死んだらさ

今まで迷惑ばっかかけて

何にも役に立たなくて

死ぬときまで迷惑かけたって

言われるからさあ

死にたくなんか
全然ないよ

本当だよ

ただね

消えたいだけ

【吐瀉物】

もうだめだなにもかもすてなければきもちがわるいはきたいはきた
いねむりににげたいあしためがさめるのがいやいつたらひとになぐ
れそうなことばかりあたまにうかぶわたしはてれびのなかのあれと
おなじなのかなにもできないようにしばらくつけてこわれていくにん
げんをみてわらうのはたのしいかおまえ

【お尋ね】

申し訳ないけど

君のことは

「お客さま」だと

想っている

「友達」と

想ったことは

一度たりとも無い

だって

僕らの間にあるのは

損得勘定だけだろう？

悪くないと

想うけどね

君は一定のサービスをうけ

僕はその対価をいただく

だいたい僕は

お客さまに対して

かなり愛想を

振りまいてるしね

商売人として当然だし

君もいい気分だったはずだ

いらっしやいませ

お客さま

またお越しく下さい

お客さま

利益得させてくださいね
たまにはチップもくださいね

お客さまは、金様です

【パラドクス、大いなるパラドクス】

あなたが生きたいと
願った今日は

誰かが

世界のすべてに絶望し

その身を切り刻みたい衝動と

吐き気と

眩暈と

頭痛と

腹痛と

どうしようもない自分への
嫌悪感で

「死にたい」と

切に
切に

願った今日なのです

【膨れる怪物】

空腹感じゃない

ただ
ただ

食べている時は
何も考えなくて済む

だから
食べる
食べる
食べる

おいしいとか
おいしくないとか
もうわからなくなっている

脳を麻痺させるために
食べている

そうするうちに

私の体は

醜い怪物に

変化していく

道行く人が

怪物だと

笑っていくよ

その笑い声

消すために

また私は

食べ続ける

怪物は

また膨らんだ

【解体】

君の手で

壊して欲しい

ドライバー

差し込んで

全部の螺旋

外してね

私を

私でなく

ただの部品に

返して

生まれる前に

返して

いなかった頃に

返して

君の手で

ばらばらに

壊して
ね

【我々は皆工場製品なのだ】

ベルトコンベアに
乗ってる人生に
嫌気がさして

ベルトコンベアを
転げ落ちた

やった
自由だ！

思ったのも束の間

「落ちたのは必要ない」

そういつて
ゴミ箱に

ああ次は
焼却場の
ベルトコンベアに

乗せられるのか

【伝説】

私は医者を信じていない

もともと信用ならないと
思っていたが

「最近物忘れがひどい。どっちがシャンプーでどっちがコンディシ
ヨナーかも思い出せない」

と相談したとき

「そんなことはよくあることですよ」

と笑われてから

さらに信じられなくなった

毎日毎日

思い出せなくて

毎日毎日

恐怖しているのが

よくあることだったって？

だから医者には信じられない

だから医者語る

「この病気は必ず治ります」

なんて伝説も

信じられないんだ

【深海の恋】

会えないからいいのだろう

あたし醜い深海魚

闇で生きてる深海魚

見たらきつと

気味悪がられる

それを知っているから

好きで
好きで
仕方なくても

会えないほうが
幸せなのだろう

【幸福製造人】

笑いは
人を
幸福にする

こんなに
人に笑われる私は
みんなを
幸福にしているんですね

クンくらえびじぎくまゆ

【とてまたのしい】

はさみを握る

振り上げて
振り下ろす

シュ

シュ

シュ

あいつの事を
考えながら

シュ

シュ

シュ

すると不思議と

腹の底から

笑いがこみあげてくる

シュ

あはははははははははははははははははは

シュ

あはははははははははははははははははは

シュ

あはははははははははははははははははは

ぐちゃぐちゃになった

あいつの顔が浮かぶ

おかしくてたまらない

シュ

あはははははははははははははははははは

シュ

あはははははははははははははははははは

シュ

あはははははははははははははははははは

大丈夫

本当にしたりしない

僕の頭は

おかしいが

僕の頭は

馬鹿じゃない

【幸せになれません】

愛されたいと
願うのに
愛されると
ひいてしまう

幸せになれない生き物

愛されたいと
願うのに
愛せないから
愛されない

幸せになれない生き物

愛されたいと
願うのに
愛を知らぬから
気付かない

幸せになれない生き物

【老町】

町が

老いていきます

好きだった

本屋も

毎日通った

駄菓子屋も

今はもうありません

小学校は

生徒不足

統合するとか

しないとか

父が

母が

白髪に

シワに

目に見えて

感じるように

町が

老いていきます

死を

受け入れようと

しています

【「〜してやるっ」って考えがまず嫌。】

「つらいんだね！君を助けてあげる！」

ああそう

とりあえず

そんな上から目線の奴に

救えるほどには

私は浅くないよ

と、言っておく

【死を想う】

その人の死に際は
とても穏やかなものだった

静かに

静かに

息を引き取った

死は

美しくは無い

醜くも無い

それが

誰であれ

どんな死因であれ

ただ

死は

壮絶だ

##

【迷子】

こんなことも
知れぬ雑踏で
あたし 迷子

「ママはもうすぐ
お迎えにくるからね」
なんて

言わないで
お願い
「君は置いていかれた」と
「捨てられた」と
そう告げて

そしたらようやく
歩きだせる

あたしが本当に
帰る場所へ

独りきりで

【アンハッピー・バースデー】

誕生日なんて

自分が独りきりなのを

確認するための日だ

生まれたことを

後悔する日だ

【破片】

欠けてる

欠けてる

あたしは

何かが

欠けている

欠けているんじゃないよ
君こそが
欠片だったことさ

【どこにも続かない道】

真夜中に
コンビニ行って
帰り道
どこにも帰り
着けぬ気がした

【頂点の孤独】

振り切れ
その速さで
まとわりつく

しがらみを

あの高みに
届くために
必要なのは

手助けじゃない
「踏み台」

足を掴む手
なぎはらえ

駆け登るための
足掛かりとせよ

天辺に
いけるのは一人

天辺に
いく頃には独り

【遠ざかるすべてに】

遠ざかる青空

仰向けで

落ちていくのが
夢だったんだ

遠ざかる青空

遠ざかる青空

遠ざかる世界

遠ざかる天国

遠ざかる神

さよつなら

さよつなら

遠ざかる青空

ぐちゃり

【アゲハの蛹】

潰してしまえ！

奴らは

醜かった過去を

無かったことにしようと
計算している

策略の美しさを

【虚ろ】

語り合った日々もあった

笑い合ったことも

罵り合った日も

今の私たちは
意志を伝えることも
困難で

君の口から漏れるのは
意味をなさない言葉だけ

こんなふうにしたのは
きつと私で
私はその罪で
君に繋がれてる

一生かけて悔いるよう
君が望んでいるから

虚ろな瞳の奥で
すべてを見張っているから

【受験生必見過去頻出問題・2】

問・あなたが殺したのは誰の（何の）せいでしょう？あてはまるも

のすべてを選びなさい。

- (ア) 家庭
- (イ) 親
- (ウ) 子供
- (エ) 兄弟
- (オ) 配偶者
- (カ) 恋人
- (キ) 学校
- (ク) 教師
- (ケ) 生徒
- (コ) 友人
- (サ) 社会
- (シ) 会社
- (ス) 政治
- (セ) 政治家
- (ソ) 経済
- (タ) 制度
- (チ) 中国
- (ツ) 韓国
- (テ) 北朝鮮
- (ト) アメリカ
- (ナ) ネットの住人
- (ニ) 思想
- (ヌ) 宗教
- (ネ) 世界
- (ノ) 病
- (ハ) あなた自身

解答？裁判所でもらえるんじゃないですか？

【釘】

吹き付ける
小さな風にさえ
吹き飛ばされるのが
怖くて

事あるごとに
この足先に
鉄釘打ち付けてきた

だから私は
前に進めない

此処にいるため
此処にいるためと
打つ釘が増えるほど

歩きだすのは
無理になって

だから
此処にいるため
必死の私に
「進め」
なんて命令
無茶なんですよ

【黒い塊】

この口から
ずるり、と
生まれ出る
どす黒く
蠢く塊

名を憎悪と言う

それらは今や
部屋中を埋めつくし
そこかしこで
奇声をあげているが

捨てることなど
できるはずがない

私はそれらの親だから

醜くもおぞましい
愛しい我が子たち

【百年孤独】

僕の孤独なんて
せいぜい

百年に満たないもので

それは

人類の歴史に比べたら
ほんの些細なもので

だから

ちよつとの我慢

そうさ たったの

百年の孤独

だけどああ
百年の孤独

【片足】

いつの間にか
どこへやら

片足

無くしてしまつて

誰かにすがらなきや
歩いていけない

それを

依存

依存と

言うのなら

お前のその
片足よこせ！

【その程度ってことなのかな】

あなたのことが

好きです

好きです

好きです

大好きです

だけど

あなたの為って

思っても

がんばれないんだ

だから僕は

ダメなんだよね

だから僕に

好きになる資格

無いんだよね

【紅イ月】

ドコデソノ血ヲ
浴ビテキタノ

汚ラワシイ

【區別】

區別しましよ

區別しましよ

差別じゃないよ

區別しましよ

あなたと私は
いらない側の人間―

区別しましょうね！

【囚人と牢獄】

そんな気は
まったく無かったのに
あたしの手は
いつの間に
誰かの血に塗れて

傷つけることしかできないあたし

柵をください
丈夫なのを
二度と出られぬよう

困って
閉じ込めて

誰もいない所に
打ち棄てて

逃げ出す気も起きない
あたしの牢獄
生まれてきたことから
罪だったの

【ぼくら仲良しグループさ】

やっぱりそうして
あなたたちは
馴れ合いばかりが大切で

よそ者のあたしを
認めようとはしないんだ

頭下げて

頼み込んで
一緒に馴れ合えたら
オトモダチ

くだらないね
気持ち悪いね
そんな関係

友達いない奴の
ひがみにしか
聞こえないだろうけど

気持ち悪いよ
あなたたち

【その手探して】

ある日は吹き荒ぶ氷雪の中で

ある日は肌焦がす業火の中で

「あたたかい」
ということを
忘れていた

なのにあなたが
あたたかな
手で触れたりなんかしたから

あたたかさ求め
彷徨うように
なってしまったじゃ
ないですか

あなたはもう
ここにいないのに

また今日も
探し続ける

あたたかな手

氷雪の中を

業火の中を

【坂道】

坂道を

登るのは苦しい

息切れして

休みたくても

もっと上を

目指さなければ

坂道を

下るのは苦しい

気を抜けば

転げ落ちる

さっきまでの頂点を

忘れることができない

平坦な道は

存在しない

この向こうは

ただ坂道

###

【攻撃は最大の防御】

精一杯

拳振り上げて

めった打ち

ココロ折れてるの

知られぬように

【皆死ね】

例えば今

「皆死んでしまえ」

と願ったとして

今後医学や科学が

よっばど発達でもしない限り

その願いは

120年後頃には
確実に叶っているわけだ

つまり
たいした願いじゃないってことだ

皆死んじゃえー

【この世の不幸】

問、この世の不幸とは何か？

解、「名を呼べど届かず」

名を呼べど
なお名を呼べど

届かず

【大丈夫】

ああ うん

またできなかつたんだ

あ 大丈夫だよ

怒ったりしないよ

笑ってるでしょう？

怒ってないよ

怒ったり

叱ったり

ケンカしたり

してあげるほど

私はあなたを

友達だと思ってるから

うん 全然怒ってないよ

大丈夫だよ

大丈夫

【鏡地獄】

街の中

学校の中

会社の中

家庭の中

腹立たしく

思う奴の顔立ちは

俺と同じ顔

腹が立つのは

自分とよく似ているから

似ているのに俺が

できないことをするから

ほらテレビの向こうの犯罪者

なんて奴だと思っけど

俺がしたいのはアレじゃないか？

それは嫉妬じゃないのか？

奴の顔は

俺の顔じゃないのか？

なんだこれは

俺の顔ばかり

ここはミラーハウスか？

なんて鏡地獄

【ふたり】

大暴れして

すべて壊したい私と

それを必死で引き止める

私がいる

こいつ殺せば

暴れられるかな

【人でなし】

「この 人でなし！」

うん よくわかったね

僕は人なんかでなく
神なんだってこと

【仮面道化】

幾つもの仮面を
巧みに付け替える
道化がやってきたよ

見事な技さ

あちらにはあちらの顔

こちらにはこちらの顔

しかし道化は

仮面を替えるのに

忙しくつて

本当の顔

置き忘れて

行ってしまった

いや

捨てていったのかな？

本当の顔は

ひどく醜いんだ

【どひしるど】

知っているよ

言われなくなつて

私の頭が

おかしいつてことは

知つてても

どうしようもないものは
どうしようもないし

そんなふうに
蔑まれたって
笑われたって
説教されたって

どうすりゃいいってこの世

【狂気孕ませ】

ふざけないで

いたって真面目なんだが

そんな言い分通じると想っているの

それはお互い様
おまえだって自分の言い分が通じると想っているから意見を言っつのだらう

あなたはおかしい

精神鑑定なんて頼んじやいないぜ

気分が悪いわ

そりゃきつと孕んだんだ

おまえの脳を犯したからな

何 すぐに気持ち良くなる

その頭で蠢いてるのは

俺の子だからな

【同じだよ 同じなんだよ】

そんなふう

影からでしか

攻撃できないのなら

君も私と同じで

陰鬱で

脆弱で

卑俗で

矮小な
生き物なのだろう

理解はする
同情はしない

【どづしていつも堕ちると願うの】

この世界から
こぼれ落ちそうぞ

それでもまだ
ここにいたいと

しがみつく手を
引き剥がそうとするのは

いつもあなたでした

どづして

どうしてなの
どうしてなんですか
ねえ

ママ

【残酷な空】

分厚いカーテンの向こう

開かない窓の外

鉄格子の隙間の遙か遠く

今日も空は

残酷に美しい

私がそこに

出られぬと知っていて

だから

あんなに

美しい

【咳をしても（尾崎放哉に和して）】

こころにいてもひとり

どろどろにいてもひとり

【雨雲一つ】

雨雲が一つ欲しいんだ

何 小さくてかまわない
俺一人濡らせればそれでいい

頭冷やしたい時
そっと降り注いでくれ

ぐしゃぐしゃに泣きたい時
ずぶ濡れにさせてくれ

何もかも嫌になった時
すべての水を叩きつけて
俺を溺れ死なせてくれ

雨雲が一つ欲しいんだ

【痛み／憧れ】

あの人は
この痛みと同じものを
私の
何千、何万倍も
味わった

たくさんたくさん
言葉で切り付けられて

なのにあの人は
あんな美しい世界を描いた

私にあの人みたいに
なれるだろうか

切り付けられた傷を
自分のせいだと広げて
未だ血に塗れている私に

あの人みたいに
あんなふうに
笑えるだろうか

私らしい世界を
描けるだろうか

【磔〜ハリツケ〜】

見せしめに
はりつけの刑の
その蝶の
せなに背負いし
罪やいかほど

【弱虫侍】

目の前に居る奴あ
みな斬り付ける
邪魔だ邪魔だと
斬り掛かれ

弱えから
お前は
弱えから

そつでもしなきや
居場所がねえ

俺に触れるな
ぶち殺すと

刀振り回せ
斬り殺せ

弱えから
お前は
弱えから

そつでもしなきや
立っていらねえ

弱えから！
どうしようもなく
弱えから！

【生きるぞ】

居なくなったら
どんなにいいかと

思っているのでしょう

死んでしまえばいいと
生きてるだけで迷惑と
そう思っているのでしょう

生きてやる

生き残ってやる

生きるのは苦しいけれど
お前をもっと苦しめるため

生きてやる

【ずぶ濡れの愛】

暗い空から

降り注ぐ

無数の口付け

愛して
あたしを
愛して

肌を伝う
その舌先
神様の愛撫は
とても冷たい

知っていたけど
知らなかった

愛して
あたしを
愛して

そうしてあたしの
熱をうばって
最後には
殺してくれるの？

神様
愛して
あたしを

その愛に
あたしは

濡れて
濡れて
濡れて

ウタイコロス・参

詩イ殺ス方法、ですか
わりと容易なのです

まずその人の

「感情の振れ幅」

それを知ることです

それは厭世家のほうがいい
厭世家は振れ幅が大きいので
この後の作業がやりやすい

次にその振れ幅に同調する詩を
なるべく負に大きく響く詩を
脳を侵す言葉で紡ぎ
作り上げます

そうしたら後は簡単
同調したまま
大きく力を加えるのです

切れます
ぷつりと
心が
精神が

詩イ殺セルはずがないと
おっしゃいますか

しかし現に今もあなたは
「詩イ殺ス」なんて
ありもしない言葉を
さもあることのように
おっしゃいました

あなたも当に
脳を侵されているのだ

さあどうなさいます
このまま振れば
本当に詩イ殺セルのか
自ずとわかる

さあ

どうなさいます？

【あの子にこいよっ】

相談しましよ
そうしましよ

あの子にしましよ
そうしましよ

みんなこれから
あの子と話しちゃダメね

絶対
仲良くしちゃダメね

決いーまった

【見えないの 見えないふりなの】

わかったような
口をきかないで

どうでもいいような
細かいことばかり
あげつらって

あなたになにが
見えてるっていうの

何も見えちゃいなくせに

腕に一本傷が増えたことも

心に大きな潰瘍ができたことも

【時計の断首台】

急げや
急げ

ほら時計は
情け容赦なく

進んでいく

間に合わないよ
間に合わない

慌てて首を

穴から出せば

ほら時計は

その針振り落とし

ちよんと首をはねる

急いだって無駄さ

間に合いつこないさ

悪あがきはよしなよ

首が落ちるだけ

【薬をちようだい】

世界が壊れる音がする

薬をちようだい
薬
薬を

この頭を
身体を
駆け巡る嵐を
早く鎮めて

病はふいの隙をついては
こうやって襲い掛かる

頼みの綱は
薬だけ

薬をちようだい

嘘っぱちの「まとも」を
手に入れるための
薬

「死ぬ」も
「殺す」も

本当に口にしたりは
しないんだ

その方が

言葉に重みがある

という事を

知っているくらいは

私は賢い

それが聞き逃された時

どうすればいいか

わからない程度には

愚かなのだけれど

【紫煙】

あなたは全てで
私を否定する

その煙草の煙だって

「お前なんか死んでしまえ」

そういう意味なんでしょう

あなたの好きな煙草

ショート・ホープ

あなたらしいわ

握り潰してあげたい

【あたしお父さんの子じゃないかもよ】

お父さん

あなたを他人だと想うのは

とても簡単なのです

少なくともお母さんは
あたしを産んだっていう
実感があつてあたしに物を言う

でもお父さんは
本当にお父さんは
わからないでしょう？

今さらDNAでも調べる？
しないよね 理由もなく

だから きつと ずっと
お父さんがお父さんだつて
本当に実感することはない

お父さんはあたしを
他人だと想っている

だからあたしも
お父さんを他人だと想う

別にそれでいいよね

面倒臭いもの

【あの頃】

あの頃はお互い
笑いあえたね

僕の人生でもきつと
あれが一番大切な宝物

君と会えなくなつて
僕は痛いということを感じた

たくさん
たくさん
覚えたんだ

また君に出会えて
僕はあの頃みたいに
笑おうとするけど

君に見せられない傷が多くて
目を合わせることもすら
怯えてしまう

臆病な
臆病な
僕

あの頃の僕はいないって
君に知られるのが
ひどく
怖い
痛い

【彗星】

手に入れたいと
願って
奪った「永遠」は
実は「悪夢」で

夜が来るたび
襲い掛かる

毛布にくるまって

二人

温め合っても

綺麗な軌跡描いて

何度でも

何度でも

襲来する

彗星みたいに

【叫ぶ神】

画面の向こう側

聞こえてきたのは

歌声なんてもんじゃない

彼女の

叫び

よく通る

美しい声の

その叫びは
たちまちあたしを
虜にした

その日から
彼女はあたしの
神になった

神の叫びに同調して
あたしも叫ぶ
届かぬ想いを
見通せぬ明日を

響け
響け
病みに入る世界に

神は叫ぶだけで
誰を救うとも言わない

だけどあたしは
その叫びに
何度自分を気付かされ
何度自分を愛せただろう

画面の向こう
今日も神は

美しく
叫んでいる

【記憶の空白】

記憶が欠損していく
脳がうまく働かない
空白に飲み込まれる

思い出せない

メモをとる癖がついた
でもどこにメモをしたか
思い出せない
メモをしたこと自体
思い出せない

ついには最愛の
君の名前すら
思い出すのが困難になって

いつかは君のすべてを

忘れてしまつのかな

寂しいという気持ちから
忘れてしまえたなら

【さあ、この手に】

私は今まで

欲しいものが

手に入らなかった事がない

手に入らないものは

この世にいらぬものだと

叩き壊してきたから

ねえあなたは

手に入るのかしら？

それとも、

【ダイニング・メッセージ】

パンを買っておくこと

花に水をやっておくこと

ヒメヒオウギズイセンが枯れそう

夕飯はどうしますか

悪あがきはしないこと

人の一面を見てそれがすべてだと想わないこと

本当のことを言わないこと

負の感情があるというところから目をそらさないように

出掛けてきます
帰らないかも知れませんが
二度と

【境界線】

「侵入者には命の保障無し」
そう書いた看板と
歪な境界線
私が自身で
書いたものだけ

踏み込もうとする人が
本当はとても怖い

命の保障無しって
言ってるじゃない
どうして入ろうとするの

いやだ

入り込まないで

触れないで

触れられたら私は
脆く崩れる

それを知っているから
虚勢を張った看板と
境界線で

自分を守るしかないの

【歪まぬのはいつも自分の心のままの世界】

変わる必要なんてない

「変わらなきゃ」

なんて幻想

誰かの意見に
自分を曲げるの？

誰かの中傷に
手を引つ込めるの？

誰かの親切めいたおせっかいに
ありがとうって笑うの？

必要ない
そんなの

それは
「歪められる」
っていうんだ

君は君の世界を
進めばいい

君の世界は
侵されない

屈伏しない
揺るがない

どんなに落とされられたって

君の世界の色を

誰かに塗り替えられる理由はない

【刻め】

切り刻もう

元がわからないくらいに

そうしたら大丈夫

牛の死体は

気持ち悪い

牛肉一切れなら平気

ハンバーグなら

何が何やら

わからないように
ごまかすように
原型をとどめないように

切り刻んでしまおうよ

【満月ワラベウタ】

夜道は怖い
急いで帰る

かあかあからすも
床ん中

お月さんみたいな
手ん鞠つけば

見知らぬ影が
影取りにくる

夜道は怖い

急いで帰る

【心臓】

もしもあなたを
想うことを
許してくださるのなら

私は体に繋がる管を
すべて切り離して
この心臓を
あなたに捧げましょう

切り離されて
尚それは
紅く蠢き
あなたへの
愛を語ることでしょう

いらなくなったら
窓から放りなげればいい
重い重いそれは
脆く碎け散るでしょう

だけど願わくば
あなたの傍に置いて
時々は触れてください

そうすれば
私は幸せ

この
心臓一つ

【覚醒】

まだ眠っている
口唇をこじ開けて
追加の薬を流し込む

扉を閉ざして
それが目醒めたら
意味なんかなさない
鍵を閉める

どうか目を醒まさないで

どうか目を醒まさないで

私

目が醒めたら

その手に刃物なんか持って

どこへ行くこつていうの

& g t ;

【かみなり】

晴天にわかにかき曇り
暗雲空を覆い尽くす

奴の唸り声が聞こえる

遙かから雷鳴
奴は光り放ち言い放つ

神なり、と

痛いほど撃ちつける雨
辺り構わず落とされるイカツチ

奴の笑い声が響く

我は神なり
神なりぞ

力でしか人を従えない
かわいそうな横暴な

神

【向かい風】

「強い向かい風が好きなんだ」

「飛べそうな気がするから」

そんなことを

言っていたっけ

あなたは今

どの空を飛んでいるの

もう地上には

降りてこないの

【クッキーヨメナイ】

ああごめんねえ

あたしさ

ほら

空気読めないからさ

みんながあたしを

友達だと思ってるって

勘違いしてた

そんなはずないよねえ

私にそんな価値

無いもんねえ

ほんと迷惑だったよね

ごめんねえ

間違っても友達だって

思ってたときは

すごく楽しかったよ

ありがとうねえ

じゃあね

ばいばい

笑いながら
泣きながら帰る
帰り道

【二人でお茶を】

あなたは私がいれたお茶を
黙って飲む

おいしいも
おいしくないも
言わない

新聞に目を落としたまま
当然のことみたいに

ねえ覚えてる？
私たちが最後に「会話」した日
「ああ」とか「うん」は
会話じゃないのよ

いてもいなくてもいいなら
私はいなくなるわよ

あなたのお茶に
何かを入れるのも
簡単なだけけれど

やっぱりあなたは
黙って飲むのでしょうか

死ぬときも
黙って死ぬの？

ああそれは
楽しい想像
あなたは最後に
会話をしてくれるの？

ロマンチックだね
私が望んだもの

さあ今日も
二人でお茶を

【ゲーム】

うまいことやれたら

君の勝ち

変なルール
変なゲーム

いつの間に誰が決めたの
なんて質問も許されずに

僕らは戦場に
駆り出される

リセットできないなんていつて
ゲームに放り込んだのは誰？

データ継承のためだけに
無理なキャラクター
押しつけたのは誰？

ああ今日のプレイも

カミサマのいうとおり

【毒と嘘】

調子にのってんだろ？

大概にしるよ

お前にそこまでの才能ねえよ

そういうところが

嫌われてんだぜ

本当は友達

いないんだろ？

見ててわかるぜ

そういう顔だ

俺は嘘は吐かねえ

毒は吐くけど

なにそれひどいね

全然そんなことないよー

君はすごくいい人だよ

うん、もちろん君は友達だし

みんなも君のこと

大好きだよ

嫌われてないって

大丈夫

僕は毒は吐かない

嘘は吐くけど

【昼間の花火】

光溢れる場では
君の輝きは目立たない
まるで
昼間の花火みたいに

君は
暗黒にあって
初めて美しい

僕の暗黒に堕ちておいで

ここでなら
君はどこより
美しい光

【真昼の花火】

あいつなんかがいるから

あたしは輝けない

あたしは美しいのよ

本当は

美しいのよ

憎たらしい太陽

あたしには邪魔者

撃ち落とせ

二度と昇れぬよう

あの暗黒でなら

皆はあたしを崇めるの

撃ち落とせ

あたし

真昼の花火

【スマイル！】

笑って！

笑って！

笑顔が一番

笑えばハッピー

スマイル最高！

大嫌いなあいつも

むかつくあいつも

見下して

鼻で笑えば

ほらね！

胸がすーっとするよ！

笑って！

笑って！

笑顔が一番

笑えばハッピー

スマイル最高！

スマイル0円！

【最深部】

うわ

すごいね

その泣き顔

ひどいよ

見れたもんじゃないよ

ふっつけてくれてありがとう

これから君を

愛する人も

あらわれるんだろうね

その度に

思い出してね

俺を

そうなるように

一番深い所に

傷つけておくから

思い出せよ

本当ひどいよその顔

笑えるよ

【ちょっとした疑問】

ねえ

何で皆さ

生きてるって思えるの？

生まれた記憶も

無いくせに

【真性】

ああこれはダメだね

「いい子」の皮

完全に被っちゃって

頭も見えやしない

中、カスまみれでしょ？

病気にもなるよ

アレと違って
余ったとこ切って
縫うわけにもいかないしね
治らないよ

君は真性クレイジーだよ

笑ってんなよ
仮性ども

【逃っ】

飛び立てぬよう
羽を落としたのに
困った人ね

足も落とさなくては
まあ腕もいらなの

どうして

どうして

あなたは首一つになっただって
私を愛しているとは
言わないの

ココロは
どこに逃げるの

【信じるってなあに】

誰も信じられない

何も信じられない

そんな考えすら

信じられない

【壁を作ったのは誰】

国境を

作ったのは誰

善悪の線を

ひいたのは誰

私と他の人を

区別したのは誰

私じゃない

はず

なのに

【幸せになれない王子】

私のかわいい

異形の王子さま

なぜ誰も

あの異形を

美しいと想わないのだろうか

キスをしたら

元に戻るのかしら？

そう想うからキスはしないの

醜さを嘆くあなたは

とてもかわいいわ

【独り言】

結局私が話す言葉は

すべて独り言なのだろう

誰の心にも届かない

聞こえていても

返事をするものじゃない

そういうものなのだろう

コミュニケーションは常に

上滑りをして
いつだって
会話にはならない

伝えよう

伝えようと

言葉を投げ掛けても

それらは何もかも通り過ぎて

独り言に

なる

なんでもないよ

言ってみたかっただけ

そうさただの

独り言

【ハートの人事部長】

まったく皆

役たたず共

君は不要だよ

今日でさよなら

明日からどうすればなんて
知ったことじゃないね
君より優秀なのが
今度はここにくるのさ

さあこの者の首を
はねてしまいなさい！

首を切ろう

首を

首を

要らぬ首を切って
新たな首を

私はハートの人事部長

首を切るのは

私次第

【細い糸】

私に手渡される

「繋がり」は

いつもか細く

はかない糸

いつでも簡単に

断ち切れるようにと

私が欲しいのは

こんなのではないって

癩癩を起こして

引きちぎって

どうして泣くのは

私なの

誰も悲しみは

しないのに

【バスに乗せて】

バスはいつものバス停に向かい
順調に走り続けている

「お降りの方はボタンを押してください」

機械の音声に手をのばしかけ
そのまま動けなくなった

このバスが
どこか遠くへ連れていってくれる

そんな想いが
私を凍らせた

いつものバス停通り過ぎて
くだらなくて笑えてくる

一体どこに辿り着くというのか
財布に金も
一人で生活する力も無い

この道に戻るしかないんだよ

今度こそボタンを押して
私はバスから降りる

歩こうか
帰りたくなにか無い道を

想いだけ

バスに乗せて

>>>

【君に捧ぐ愛のウタ】

この世界が欲しいなら
それくらいあげるから
どうか僕のものに

ほらね
こんなに汚れることすら
厭わないんだ

君の為に
流す血なら
いくらだって

ワガママばかり
欲しいものは
手に入れたい
君だから

そのために
なんだって奪える
僕がいる

そんなところで
笑ってないで

ご褒美のキスくらい
頂戴

まだまだ足りないなら
この世界くらい
壊してあげるから

この世界が欲しいなら
それくらいあげるから
どうか僕のものに
なってください

血塗れのプロポーズ
どうか答えてください

【3つの答え】

日本人の平均寿命は80歳程度である。

A・80年も生きられるのか

B・80年しか生きられないのか

C・80年も生きなければならぬのか

【強い強い強い愛】

あのね

だから

そんなふうだね

強く抱き締めすぎるから

みんな潰れてしまっただよ

聞き分けのない

子供みたいに

しがみつくけど

その腕の中で

愛するものは

悲鳴を上げて

絶命する

君の愛って

そうなんだよ

とても強いけど

強すぎて

殺してしまっんだ

【二人の世界】

ここは二人の世界
二人だけの世界
素敵ロマンチック

おまえがいなけりゃ
世界は我が物

お互いそう思っているから
なかなか動けずにいるよ

二人だけの世界
なんて美しい

【かくれんぼ】

かくれんぼするもの
この指とーまれ

あの子の消しゴム
かくれんぼ

あの子の教科書
かくれんぼ

あの子の上靴
かくれんぼ

もういいかい
まーただよ

そしたらあの子が
かくれんぼ

もういいかい
まーただよ

見つけてなんて
あげないよ

【いない世界】

小さな頃
自分がいない世界を想像して
怖くて眠れなかった

今
自分がいない世界を
望んで望んで
眠れない

【誰も知らない救世主】

この世の誰だつて
私自身だつて
死んでしまつて
かまわなかつたのに
あなたただ一人が
死んでしまうのが
許せなくて

私は未だ
世界を終わらせずにいるんだ

皆はもつとあなたに
感謝すべきだと想つよ

【ちいぷ・らぶ】

愛をください
チープなのでいいのです
見栄えさえよければ
すぐに壊れたつて

愛をください

ディープでなくていいのです

とりあえず今の

最悪な気分

晴らしたいだけ

「本物の愛」なんて高級品

不相応でしょう？

別にいいのです

偽物しか食べたことが無い

安っぽい

愛をください

【空行く君へ】

飛び立て君よ

翼もて

大空目指し

高く高く

一番高くを

君を想って
君を想って
君を想って
君を想って
君を想って
君を想って
君を想って
君を想って
夕飯無理矢理流し込んで
君を想って
君を想って
君を想って
風呂入って
君を想って
寝る
君を想って

君がいなくなってから

【無音の声】

ああ

今日も

誰ともしやべらなかつたな

心はこんなな

叫んでいるのに

【優しい君が嫌いだよ】

自分が痛むことばかり
気にしていたから
君も痛かったなんて
気付きもしなかった

僕は悪い奴なんだろうか

君はいつだって
僕が痛むのを心配して
自分が痛むそぶりなんて
見せもしなかった

優しさに
気付きもせずに

なんでだよ
なんで

いつの間に
僕より大きな

痛みを抱えて

僕より先に

いなくなるなんて

ひどいよ

僕はまた痛くなった

痛いよ

痛い

【濡れ羽色した】

屋根の上から

烏

少女に語りかける

美しいね

お嬢さん

私と同じ色だ

何が？

問うた娘の衣は
薄紅で

ちいとも烏の黒じゃない

何、魂が、さ

少女は烏見上げ一言

そんなに美しく

黒くはないわ

もつと

汚れた色よ

【許されざる】

許すことが

美しいのだと

人としてあるべき姿だと

知ってはいるけれど

醜くても
人ではない何かに
なつたとしても

あなたを許すことは
私にはできないから

許さないことで
自分を保てるから

【大人になるということ】

泣けば誰かが
なんとかしてくれる
幼い日々は
とくに過ぎ去って

もう私は
歩いていかなくは
涙が
止まらなくとも

【神様の神様】

みんなの願いを
叶えてくださる
神様

では神様のお願いを
誰が叶えてくださるの？

誰も叶えてくださらないの？

とてもかわいそうなので
私が神様の神様にな
ってあげる

さあ
跪いて

私を崇めなさい

神よ！

【世界の終わりに、僕は】

もし明日

世界が終わるのなら

僕は何をするのだろう

見たくない顔ばかりだから
家には居たくないな

会いに行きたいほど

好きな人もいない

どこか独りになれる場所
探すだろうな

最後に何か食べるかな？

いやきつと

お腹もすかないだろう

だっ
だっ
だっ
きつと
わくわくして
その瞬間を
待っているから

世界の終わりを
見て死ねるなんて
とても素敵な死に方だよね

【賢い君は】

感情ぶつけて
傷つく度に
君は一つずつ
賢くなつて

にこにこ笑いの奥に
本音押し込む技を覚える

誰かさんが
感情むき出しでいるのを見て

馬鹿にしてるくせに

もう馬鹿になれない自分に
いらだつてにこにこ笑いで
涙流すんだね

賢くなるって
悲しいね

【俺たち妄想伝説】

殺したら
伝説になれるかな

死んだら
伝説になれるかな

ゲームの勇者様じゃあ

ないんだから

【1】連絡】

残念なお知らせです
君は社会不適合者です

実に残念なお知らせです
君は生存不適合者です

まことに残念なお知らせです
君はそれでも生きねばならぬ

>>>

【プリズム・プリズナー】

硝子片に

閉じ込められた気分なんだ

昔読んだ大文豪の本にも
似たような言葉があった気がする

あれは硝子片では
なかった気もするけど

うん

まさにそんな感じだ

他人に手が
届かないんだ

あの文豪も俺と
同じだったのかな

ちよっと愉快だ

【因果応報】

何 当然のことなのだ

僕は君たちを否定しなかった
だが君たちは僕を否定した

報いを受けるべきなのだ

因果応報

僕も君たちを否定する
その存在すら

居てはならないのだ

君たちは滅するべきなのだ

否定された僕には

否定する権利があるのだ

因果応報

そういうことなのだ

【平等のルール】

例えば人種

例えば性別

その他色々

いつだって「平等」は叫ばれて
それが本当に叶ったことはない

ただ一つ

死

を除いて

才能に溢れ

誰からも必要とされる者にも

皆に疎まれ憎まれる者にも

死は平等に訪れる

生きる時間の長さに
差はあるが

死が訪れるということは
誰しもが決められている

死に際が幸せに満ちた者もあれば

孤独で悲惨な者もあるが

それでも死ぬということは
皆同じなのだ

誰もが望んで
誰もが成しえなかった
平等

死だけが
そのルールを
成しえる

美しきルール
平等
死

平等に死んだ後に
天国や地獄なんて
不平等を持ち込むのは
実に不粋だと思わないかね

【あなたは冷たい土の下に】

待て

とあなたは言いました

私はあなたの
忠実な犬

待ち続けます
いつまでも
いつまでも

あなたが
よし
と言うまで

待っていてくれ

そう言ったままあなたは
物言わぬ姿で
帰ってきました

今私は

あなたが

土の下に行くのを
見ながら

待っています

なきもせず

私はあなたの
優秀な犬でありたいから

よし

が聞こえるまで

待っています

耳を澄ませて

【1から】

悲惨なもんだよ

また1からスタートだ

人生はやり直しがきく

いい言葉だね

でも1からスタート

正直やってらんないぜ

うんと年下のガキに

えらそうな顔されてよ

腹立ってぶん殴ったら

またどっかで

1からスタート

おまえも俺を

1だと思つか

残念

今俺はマイナスだ

見下してんだろ

マイナスの奥

覗いたことはあるか

果てない深遠

見たことがあるか

何まともに聞いてんだよ

冗談だよ

馬鹿だね

いや俺のこと

【そんなものだ】

国境を越えると

そこは

天国だった

なんてこと

あるはずもなく

違う地獄が

広がっているだけ

【あの頃・ANSWER】

お前が隠してる傷なんて
とっくにお見通し

いつまでそれに捕われるの

その傷なんかより

大きな痛み与えたら

それを忘れられるの

爪をたて

牙をたて

もっともっと

痛くしてやるよ

俺だけの痛みに

支配されてよ

あの頃のお前も

今のお前も

俺の知らないお前も

全部俺のもの

【癒せぬ渇き】

目が霞むほど
手が震えるほど

渇くよ

この渇きは何
渴いているのは
喉なんかではなくて

君の血で
潤せたら
なんて
イカれた妄想も
正当化したくなる

ただ
ただ

生きているだけで

渴くよ

【MOON】

暮れ泥む空に
銀色三日月

月は人を狂わせると
何かで聞いたけれど

これ以上
狂わせられるものなら
やってみろよ

そう言つて睨んだら
月は怯えて
震えていた

【肥料】

腐敗していく
心の奥まで
ゆっくり痛みながら
腐敗していく

そんな私を糧に
あなたは花ひらくのでしょう

美しく
ただ
美しく

【デルクイ】

杭がでてるぜ
打とうぜ
打とうぜ
みんなと同じに
なるまで打とうぜ

一人だけでてるなんて
ずるいぜ

何故その杭が
抜きんでているか
わからぬ愚かな者達は
たたくよたたく
でる杭たたくよ

でる杭にかなわないからって
たたき続けるよ

でる杭の天辺から
笑われているのも知らず

【暗い道】

君が行こうとするのは
果てなく暗い道なのです

恐れ泣きながらも
行くしかないのです

手を繋ぎましょうか
私の行く道も
同じ方向なので

一人で泣いていたら
寂しいけれど
二人だったら
ちよつと滑稽でしょう？

行きましょう
暗い道を

【嘘世界】

この世に生まれ出た君よ
君に嘘を教えよう

まだ疑うことを知らない君に
きれいな嘘を教えよう

人間はみな本当は善良だ

話し合えば誰しも
争わずに済む

情けは人のためならず

夢は信じれば
必ず叶う

世界は美しい

いつか君は言うだろう
「嘘ばかりを教えたな」と

その時私は言おう
「この世は嘘ばかりだと
教えるためだよ」

君はきつと
それが本当か嘘か
わからぬ顔をして

【言わずの恋】

誰にも言いません

私があなただを好きだなんて

私は自分を知っているから

あなたに迷惑を

かけることはしません

遠くから見たりしません

あなたの行きそうな場所に行ったりしません

あなたの名前を
言いません

あなたの視界に
入りません

こんなに自分を抑えても
まだあなたを好きだなんて

実に私は馬鹿なんだと
そう思います

馬鹿に好かれるのは
迷惑でしょう？

ごめんなさい
ごめんなさい
ごめんなさい

【奪還の日】

奪い返したい
大切だったもの

それは

春の日
穏やかな日差し
暖かな空気

小学二年生

土曜日の放課後

当時はまだ午前授業で
午後は友達と遊ぶ約束
お昼ごはんはなにかな

平和な

平和な

もう帰らない日々

憧れて

憧れて

二度と届かないとしても

私から

奪い返したい

【衝動的に】

誰でもよかったんです

知り合いでも

見知らぬ人でも

無差別です

老人でも
小学生でも
赤子づれの母親でも

ただ衝動なんです

一人でも

大量でもよかった

誰でもよかったんだ

ただ

笑いかけて欲しかった

そんな衝動がわいて
さまよっていただけなんです

もやがかかって
見通しがききません

フォグランプリは
むなしく光り

まあこの先が崖っぷちでも
これは幸い

思い切り
アクセルを踏み込む

【返信】

いまさら何だよ

散々ほったらかしで
育ててきたくせにさ

体の調子が悪いとか

もう歳だからつらいとか

都合のいいことばかり

面倒みなきや

極悪人みたいな

脅迫しやがって

ずいぶん昔に

あなたからいただいた言葉

綺麗に包んで

送りがえしますね

甘えるな

【体は知っている】

この体は

何故か知っている

皮膚を肉を切り裂く感じ

骨を砕き折る感じ

心臓を貫く感じ

人を

殺す感覚を

何故かリアルに
想像できる

それは

自製の本能？

本当に

してしまわない為の

【死ねと言うのは】

私はあなたに死ねと言う

なんの遠慮もなしに言う

それはあなたが
生气に満ち溢れているから

か細い弱い命に
人は死ねとは言わない

あなたは生きている

強く

強く

疎ましいほどに

本当

死ねばいいのに

あなたは生きている

あの人やあの人たちなんかとも
生まれ変わって
また出会う可能性があるわけで

あなたごめんなさい

さようなら

さようなら

二度と会いません

世界のシステムが
死んだ後に
再会できるもので
ありませんように

【否定の快樂】

他者の想いを

まったく否定するのは

快樂

他者の信ずる神に

汚物をぶちまけるのは

快樂

この想いを否定したあなただって
快樂に浸っているのでしょうか？

薄汚い

快樂

【型】

おまえの型に
はめ込むなよ

型にはまらない奴は
気に喰わないみたいだけど

おまえの型は
見識は
了見は
狭すぎるんだよ

おまえの型にはまるほど
俺は小さくはないし
単純にできていないんだ

おまえの思い通りには
ならないんだよ

【清潔な暴力】

清潔な暴力を振るおう
制服が血で汚れないように

清潔な暴力を振るおう
僕らの未来が汚れないように

そいつの耳の穴に
小さな爆弾を投げ込め
それは中で大きくなり
中で爆発するのだ

僕らは少しも汚れない

何年か経って
昔自殺したやついたよなって
笑い話にできるくらい

清潔な暴力を振るおう
誰にも暴力と気付かれぬよう

清潔な暴力を振るおう
ゴキブリみたいに清潔な

【逃亡の果て】

逃げよう
手に手をとって

遠くへ

遠くへ

もう追いつかないと
振り替えて
絶望しよう

まだ手のひらの
上だったと

【魔法少女】

小さなころのあたしは
妖精が見えた
魔法だって使えた

空はまだ飛べなかつたけど
いつかは飛べるつもりでいた

食事に混ぜられた
少しずつの
『現実』

それはあたしを
ゆっくり侵していった

気付いたら妖精は
見えなくなっていた

魔法も
使えなくなっていた

これじゃ
空なんて飛べない

飲まされたものを吐き出せば
なんとかなるか
咽喉に手をつっこんで
吐いている

体が軽くなった

飛べそうな気がした

【YES/NO】

選択を迫られる

YES OR NO?

二つの答えがあるはずなのに
私は選べた試しがない

この仕事やってくれる？

どう、おいしい？

手伝ってほしいんだけど？

貸してくれないかなあ？

私のこと愛してる？

YESで答えることが

前提の質問

いつだって

NOを言う権利は
剥奪されてしまう

YES OR NO？

NO！

NO！

NO！

大きな声で

NOと言わせて！

【「別れよう」の言葉】

君も僕も

傷つけるはずの

諸刃の剣

振るったのは僕

死んだのも僕

【行こうか】

歩いていきたいな

どこまでも

どこまでも

どこでもない場所に

行きたいな

【失敗の天才】

自殺したいっていうなら
してみるよ

おまえは絶対
死に損なう

いままでの人生
失敗しかしてこなかったんだから

【迷うなあ】

ねえ

どっちが好み？

教えて！

教えて！

あなた好みになりたいの

愛してくれないのなら

あなたの最愛の人を

殺す女

愛してくれないのなら

あなたを殺して

自分も死ぬ女

ねえ

どっちが好み？

教えて！

教えて！

あなた好みの
女になりたい！

【指先はおしゃべりなんだ】

指先はおしゃべりなんだよ

ノドなんて役たたずさ

指先はしゃべりたがるよ

ノドなんて詰まっつてばかり

指先がしゃべりたがってるよ

ノドなんてくれちまいな

指先だけ

しゃべってりゃいいよ

【社会人認定おめでとう】

仕事中ふと

目に入った鏡には

笑顔の私が映っていた

おかしくもないのに

うれしくもないのに

笑っていた

「どんな時でも笑顔でいられたら
一人前だよ」

ああそんなこと

言われたなあ

社会人一ヶ月目

おめでとう

おめでとう

一人前に

頭がおかしくなりました

【秋】

ああ

秋の日の
夕暮れよ

金木犀が

悲しいくらいに薫る

こんな日は

また夜が長くなったのを
嘆くのです

想い悩む時間が増えたのを
嘆くのです

そして

やがて
訪れる

冬

【届け電波】

僕は今日も
空に向かって
電波を放つ

僕は
ここで
独りです

携帯の電波に
乗せたこともあつたけど
余計な電波が多くて
傷つけられてばかりだったから

やっぱり僕は
この空に
電波を放つ

この電波を受信できる
たった一人めがけて

きこえますか
君も独りですか

話をしませんか

【銃弾】

君のため

最後の銃弾

一つ残し

死にいく僕を

どうか称えて

【観察記】

君に嫌いと言われたから

僕が見ていたのは

君の幻影と気付いた

よく笑うのは

付和雷同な

相づちをうつているだけ

おもしろくもないくせに

嫌われたくないだけの計算

自分の意見がないんだ

誰にでも優しいのは

その方がウケがいいのを

知っているから

偽善者

心なんてこもってないんだ

観察してるよ

君のこと

嫌いになる理由

見つけるため

観察してるよ

今嫌な顔をしたね

嫌いになる理由

また一つ増えた

【脳】

脳がいけない

脳がささいなことで
腫れあがるのがいけない

淀むのがいけない

ねじれるのが

必要なのは
一発の銃弾
さあ銃口を
こめかみに

この脳を弾け飛ばせたら
さぞ気持ちいいと想うんだ

どんなにさわやかと想うんだ

引き金は意外に軽かった

【変わらない世界】

私が死んだら皆は

悲しんだり

悔やんだり

自責の念にかられると

思っていたのに

世界は何も変わらない
笑った人がいただけで

ウタイコロス・肆

死ねませんでしたか

ならばあなたは

まだこの世界に

希望を持っているのです

死以外の道が

見えているのです

生きることを

諦められないのです

醜い

……失礼、これは私の主観

どうぞ忘れてください

さあ詩イましょう

最後の詩を

私はもう詩ワナイ
詩工ナイ

さあ詩イましょう
私が私に捧ぐ詩

私が私を
殺す詩

【さようなら】

さようなら
さようなら

大きく手を振って

さようなら

さようならだけが人生とか
昔誰かが言ってた気がする

たくさんさようならをしてきたね
そんな日々ともさようなら

さようなら

さようなら

もう誰にも

言うことはない

これが本当の

最後の

さようならだ

それじゃあもう

二度と会わない

またねなんて言わない

さようなら

.....

あの詩ウタイなら死にましたよ。
詩イ殺シタんです、自分自身を。
ここが詩ウタイの墓場です。
花はどうか手向けしないで。
ただ、そこいらに散らばっている「ありがとう」を、記念にもらってやってください。

そして、どうぞ時々、あの詩ウタイがいたことを思い出してください。

たぶんあの子は嫌そうな顔をして、そして泣きそうな顔をするでしょうから。

.....

詩ウタイは死んだけれど
あの子の詩は生き続ける
誰かの心の隙間に
そつと入り込んで

「いつでも殺してあげる」と

あの子の靴を探ったら
あの子の詩イ残しが残っていました
まだもう少し
あの子の詩に

お付き合いくださいます……

詩ウタイの鞆の底にあった、詩層たち

反響

独り言をいう

独り言は

壁にぶつかって

私の耳に帰る

私は独りだと

確認する

独りだ

スリーピング・ヴァンパイア

できることなら
死ぬまで眠りたい

誰にも邪魔されず
深い眠りで

眠りのなかで
いつか誰かが
眠る私の

心臓に杭を打ち込んで

眠り姫は吸血鬼になる夢を見るの？

空を飛びたいと願う君へ

空を飛びたいなんて
願うのは

地の底の美しさを
知らないからだよ

さあその高みから
地の底目指して
落ちてごらん

ほら
美しい

笑笑

世界中の
笑い声が
聞こえるよ

僕を笑い飛ばす
声が聞こえるよ

ねえ何が可笑しいの？
僕はみんなと同じで
目も耳も口も鼻も
同じについていて
どこが滑稽なの？

笑ってばかりいないで教えて

それとも僕は
笑われるために存在してるの？

笑い声がうるさくて
何もわからないよ

一人殺してみた
笑い声が一つ消えた

ああ
こつするべきだったのか

しかし
全部消すには

先が長いな

でも

僕も少し笑えた

極論

たくさんあるって

言われてる解答の中で

僕は極論二つを手にする

望んだんじゃない

それしか渡されない

苦しみ悶え生きること

死ぬこと

適当な中間は得られない

二つの極論

どちらかを選ばなきゃ

死ぬことを選べば

もう選ぶこともない
知ってはいるのだけれど
いるのだけれど

君の言うありきたりをもう少し良くするなら塩を3ミリほどひつようである3ミリを馬鹿にしてはいけない3ミリ銃弾が横にずれていたら大統領は死ぬこととなりこれは核戦争へ繋がるのだ放射能に汚染された蛙の卵を見よその群青の深さにはかのシャガールも驚嘆するのであるうなげならそれは聖書の一文とまったく合致するのである些か性急ではあるがこのことを宮坂さんに伝えてほしい宮坂さんはいつも学校で爪をきっていたのでよく覚えている放課後私はよく保健室で過ごしたそれは虫をとるためなのだがその虫は目を閉じると目蓋の裏にびっしりと黒い斑点となって見えるなかなか気のいいやつらで先だってイギリスに行く際に傘を忘れたのだあのなかには妹の大事にしていた人形の薬指が入っていたので妹はとても悲しんだ無ければ無いでどうにかなるのであるがやはりこの狭い箱の中に生活しては窮屈を感じなくもない抗議文を生徒会室前に貼ったのだがあの紙をストローの替わりに持つていく人がいるのでは不安でしかたないはみ出した部分は切れれば使えるが無理強いはよくない

電波状況がおかしいようです今すぐ電気屋へ右足に気を付けて

輝きもせず

皆は

外の光を浴びて
自ら輝くということを知る

だが私は

いつだって

内に閉じこもり

その暗黒に住む

「何か」を見つめる

目を凝らして

輝きもせず

あなたの手

私の体が
冷たくなっていく
その時は

最期に私に触れるのは
あなたの手がいいです

お医者さまの手じゃなくて
あなたの温かい手がいいです

それが例え

この首を絞めあげていたとしても

あなたの温かい手がいいです

まちがいさがし

あの人は
この人が嫌いで

この人は
あの人が嫌いで

あの人はこの人が嫌いな人たちで
あのグループを作りました

この人はあの人が嫌いな人たちで
このグループを作りました

あの人が言いました

「あなたはこの人が嫌いよね」

この人が言いました

「あなたはあの人が嫌いよね」

私はそんな関係が馬鹿らしいので

「どちらでもないよ」

と答えました

そしたら

そしたら

あのグループにも
このグループにも
他のみんなにも
嫌われました

まちがいさがし
まちがいさがし

私何をまちがえた？
どうして独りになっちゃうの？

まちがいさがし
まちがいさがし

このまちがいさがしは
確か小学生の時もあった
いい大人が
こんなまちがいさがし
するとはね

もう
まちがいでもいいよ
独りでいいよ

君はゴミだ
汚いものだ
捨てられたものだ

でも君は幸せだ
君には
拾いあげてくれる者がいる
君は幸せだ

拾いあげた者は
君を大切にしてくれる
ゴキブリがわき
蛆がわき
他にも拾われてきた
わけのわからない
汚いものたちに囲まれ
周りに「撤去せよ」と怒鳴られ
君は大切にされる

君は幸せなゴミだね

舌打ちモーニング

ちっ

ちっ

ちっ

おはよう

君が目覚めたから

小鳥が舌打ち

しているよ

みんな君が嫌いだよ

バッドモーニング！

舌打ちして

ベッドから出よう

みんな ひとり

みいんな

ひとり

だよ

すべての

かんがえが

おなじひとは

だれにも

いないから

みんなひとりだよ

せかいじゅうが

ひとりだよ

ひとりはさびしいよ

みんなさびしいよ

せかいじゅうが

さびしい

さびしい

さびしいよ

みいんな
ひとりだよ

そうおもったら
ほっとした
なみだが
こぼれた

殺愛

君が死にたいと言うのなら
殺せるくらい
愛しています

刃が肉を貫く感覚も

首に回した指が
めり込む感覚も

鈍器が

頭蓋骨を砕く感覚も

すべて愛せます

君の今際の際の表情を
この目に焼き付け

目蓋を優しく閉じ

硬直していく体を抱きしめ

最後の口づけ
かわしましろう

愛しています
愛しています
愛しています
殺せるくらい
愛しています

狂気の部屋

狂気の部屋だ！

狂気の部屋だ！

ここは

狂気の部屋だ！

本棚には

人殺しの本が並び

オーデイオからは

人殺しを教唆する歌が流れ

テレビでは

人殺しのニュースがひっきりなし

狂気の部屋だ！

ここは

狂気の部屋だ！

首落とし

有ること

無きこと

醜聞語り

そしる言の葉

薄汚し

人に口の

あるのがいけぬ

首から上を

チヨンと落とせ

仮面武道会

闘いぬくには

仮面が必要で

何枚も

貼り付けてるの

だけど

ふとした瞬間に

誰かがそれを

引き剥がそうと

逃げて

逃げて

仮面武道会

闘える力が

無いのなら

負けて皮膚ごと

剥がされた

仮面の下を

聴衆に笑われたくないなら

三時間目の教室で

授業中

ノートの片隅に

「死にたい」

って書いた

誰かに見られて
心配してほしいの？

ノートの片隅に

「死ね」

って書いた

誰かに見られて

「誰のことだよ」って

吊るしあげられたいの？

どっちも消しゴムで消した

消し跡を

誰かに見つけてほしいの？

集団恐怖

君は怖くないのか

あの大勢のヒトの塊を

あれだけたくさんいるんだ

一人は必ず僕を嫌いなヒトがいる

僕が消えればいいと思っっている

僕を殺したいと思っっている

君は怖くないのか

あの大勢のヒトの中には

僕を貶めようと企む者がいる

僕を笑おうとする者がいる

そういう事実が

君は怖くないのか

僕は怖くてたまらない

出ていってくれ

君が

僕を

嫌いで

消えればいいと思っていて

殺したいと思っ

ていて

笑おうとしている

かもしれない

君も所詮集団の一人だ

僕は君が怖くてたまらない

君は僕が怖くないのか

紅い世界

彼は

血と

臍物を

捏ねて世界を

創っていた

それがあまりに

美しかったので

私は彼と

共にいることを決めた

ねえ

この血肉を

あなたの世界に

使ってね

私があるあなたの世界になる

あなたの世界が私になる

+

矛盾の日

とてもとても
寂しいので

独りつきりに
してください

「誰か！」と
叫びたくなる程

独りつきりに
してください

寂しさで死ねる
それくらい

独りつきりに
してください

そこまでいかなきゃ
たぶん
治らないの

この病は

とてもとても

矛盾しているけれど

独りっきりに

してください

メルヒエン

童話みたいだね

針と糸を使えたらいい

眠っている間に

あの人の

口を縫い付けちゃうのよ

ほらもう

あのうるさいお小言や

けたたましい喚き声

聞かなくてすむのよ

メルヒエンチツク
メルヒエンチツク
女の子はメルヒエンが好きなの

内側に

外側に
傷つけるのは
同情してほしいみたいで
嫌なんだ

傷つけるなら
内側に

ざくざくと
胸の中
抉る
刃物

飛び散る血
痛み

「痛い」

「生きてる」

繰り返しながら

狂気の在りか

まあね

大人ですから

常識くらい

ありますから

自分がおかしいってこと
隠すくらいはできます

狂気はいつもこの腹の底

だけどね
そんな理不尽な
物言いをされたら

爆発しても
仕方ないですよ

狂気は今
この舌の上

玩具箱の悪魔

取り憑かれてる
玩具箱の悪魔

玩具箱の中にしか
興味がなくなってきた

不親切設定な現実より

玩具箱の中は快適

ごらん

玩具箱の中は

見知らぬ冒険や

胸ときめく恋が

現実に嫌気がさすほど

玩具箱の悪魔は

力を増して

いつか

知らぬ間に

玩具箱に

閉じ込められる

居心地いいからでたくはないよ

玩具箱の悪魔は

最高の友達さ

難問

何もかも
難しいね

僕には無理だ

死ぬということ
生きるということ

人魚のように

ねえ
この海に
身を投げたら
泡になれる？

海洋汚染！
海洋汚染！

私は世界破滅の
ベクトルに加担する

正戦

戦争は悪だ
人間のする
最も愚かな行為だ

なくそう

戦争

やめよう

戦争

さあみんな

戦争をなくすために
戦争をしよう

各国にスパイを送れ
言論を統制せよ

戦争をなくすためだ

戦争反対！

足並み揃え行進せよ

できぬ者は厳罰だ

戦争をなくすためだ

戦争反対！

人の

1人や

10人や

100人や

1000人や

10000人や

100000人の

犠牲など仕方ないではないか

戦争をなくすためだ

戦争反対！

聖戦なんて

うさんくさい神に

とらわれた

戦争じゃない

そんなのをなくすための

これは正しい戦争だ

言わば
正戦なのだ！

躊躇うな

何を躊躇っているんだ？
その手は
人を殺める為にある

何を躊躇っているんだ？
その首は
自ら掻き切るためにある

何を
躊躇って
いるんだ

装備

それは容易く折れるから
崩れやすいものだから

心はナイーブでデリケート

守るための武器だから
だって小さな要塞だから

心にナイフとバリケード

世界が終わったら

世界が終わったら
迎えに来てね

ここにはもう
いられないから

あなたが創った世界に
連れて行ってね

あなたがその筆先で
描いた世界へ

あなたが描いた
あの空

あの空に憧れて

あなたに

恋した

ねえ

世界を終わらせて
迎えに来てね

あの空の下
連れて行ってね

約束
ね

うし

食べられるために
産まれ

食べられるために
育てられ

食べられるために
殺される

牛は別にいいんだって

じゃあ

鯨はだめですか
犬はだめですか
猫はだめですか

人はだめですか

なんで？
どう違うっていうの？

所詮

みんな

生き物じゃないか

腐乱生体

知っているか

人は

生きたまま

腐ってしまう

桃や

みかんのように

寝具などに

固定されると
圧迫が強い部分から
腐るのだ

そうだ
それと
同じだ

心が
動けぬまま
腐っていく

生きたまま
ゆっくりと
痛みをともなつて

腫れ物

心臓が
腫れ上がってるみたいだ

熱く
熱をもつて
ドキドキ
ズキズキ
痛む

破裂するんだ
きつと
わかるんだ
わかるんだ

ぼくのゆめ

ぼくは
しょうらい
せんすいかんに
なりたいです

しんで
このからだ
なくなったら

うまれかわって
せんすいかんに
なりたいです

ふかいふかい
うみのそこに
しずんでみたいで

だから
しぬときは
うみにとびこんで
しにます

せんすいかんに
なりたいです

それが
ぼくの
しょうらいの
ゆめです

もしも

もしも僕が
神様だったら

出来損ないの
人間を

たくさん作って
笑うだろうな

そのうち飽きて
全部
壊すだろうな

悪魔面した神の
笑い声が
聞こえなかったか

劣化コピー

コピーは劣化する
コピーは劣化する
コピーは劣化する

君なんて

所詮

誰かの真似で

日々の生活

生きている

コピーの寄せ集め

オリジナル

見せてみるよ

君自身なんて

存在してるのかい

コピーは劣化する

コピーは劣化する

コピーは劣化する

誰かのコピーしか

作れない君

コピーはオリジナルの

美しさを越えられない

劣化コピーは

見飽きたよ

ルナティック

ダメだ

月明かりが

美しすぎて

おかしくなる

誰か

痛みを

正気に

かえして

でないと

連れてかれる

意識

が

マザー・グースのレシピ

ハンプティ・ダンプティで
半熟玉子を作りましょう

おや
だあれ

中身はとっくに
エンプティ

誰が中身を
盗んだの

きつとコマドリ
殺した奴だ

あいつはママの
肝臓も
テリーヌにして
食べたんだ

かわいそうな
マザー・グース

無価値なあたしにさよならを

ねえ陳腐な

小説やドラマみたいに

頭うつたくらいで

記憶が消せるなら

あたしの頭

ぶん殴ってから

さよならを言っ

脳が砕けても

どうでもいいわ

あなたが必要としないなら

あたしはあたしの

価値なんて見いだせない

++

明順応

人は

眩しい光を見ると

暗闇を作って

その光に抗う

あなたのあの時の

目映さがいけなかった

あれから暗闇しか見えない

睡眠薬の必要量

希望：もう目が覚めないくらい

無理ですか？

眼帯少女

片目

病んでる

みたいなの

距離感が

わからない

あなたとの距離

測れない

片目

病んでる

みたいなの

半分は

いつも
真っ暗な
世界

片目
病んでる
みたい

あたし
まるで
眼帯
少女

三者三様

異常者について

他人の場合

異常者本人は蔑む対象であり
その身内は憐れむ対象である

身内の場合

他人は知られたくない者であり
本人は煩わしい荷物である

異常者本人は

他人は

「死んでしまえ」

であり

身内も

「死んでしまえ」

である

自分自身も

「死んでしまえ」

である

汚物

汚いもの

汚いもの
汚いもの
目をそらしたくなるもの

でもよく見てご覧
そこにはほら
「現実」
って書いてある

綺麗なところしか
見てこなかったの？

それじゃあ君の
汚い部分は
ほっとかれて
さぞ汚くなっているだろう

綺麗なものだけ
見てきたのにね
こんなに汚い
なんてね

パラパラまんがと再生から見る宇宙の証明

例えば

ノートの隅に

パラパラまんがを描く

丸と線で作られた彼は

ページがめくられるたび

頭が膨らみ

爆発して

死亡する

ところが

逆の方向にめくると

彼はたちまち

再生するのだ

ところで

宇宙というものは

膨らみ続けては

爆発するらしい

そして

また新たに

再生するそうだ

さて

僕は時々

いろいろなものが

鬱積し

突然

爆発する

ところが

しばらく時間がたつと

何事もなかったように

再生するのだ

わかるかつまり

パラパラまんがは

イコール宇宙なんだ

パラパラまんがは

イコール僕なんだ

ゆえに

宇宙

イコール

僕だ

これで証明を終わる

神様、愛していました

ごめんなさい神様
愛していました

あなたのためなら
なんでもできた

あなたがいるから
なんでもできた

なのにこうして
あなたの脳天に
銃口をむける日が
くるなんて

ごめんなさい神様

あなたより

大切な人ができました

その人のためには
あなたは邪魔なの

わかってくださいますよね

さようなら神様

愛していました

死んで

ください

お料理できません

私お料理
できません

刃物持つのが
怖いです

自分の手を切るのは
怖くないの

慣れてるから
ね

ただ
刃物を持つと
そこいらにいる人を
刺しまくりそうで

うん
やっぱり

私はお料理
しないほうがいい

言葉は道具

ねえ
言葉なんて
いくらでも変化できる
ただの道具で

ナイフだとさしだされたものを
これは飴細工なんですねって
溶かして
ふわふわの
わたあめにすることだって
できるんです

だけどこんなにも
誰も彼もに
ナイフを突き出されたら
傷つく以外の
どうしようもないのも
事実なんですよ

ねえ

虐待されて育った君へ

復讐したいと
願うなら
何

あと60年ほど
待ちなさい

あなたが彼らに
容易に仕返しできる日が
きつと来る

理不尽な暴力
冷たく痛い言葉を
そういったものを
彼らが抵抗できなくなる日が

まあその時
本当に仕返ししたとして
なんらかの不利益を
被ったとしても
私はなんら
関知しないんだがね

私の世界

二人の世界は
それぞれで
やっていけると
信じていた

私たちは
対等だと

だけどいつの間に
私の世界は
あなたに奪われて

あなた無しに
存続できない
私の世界

隷従するしかない

私の世界は
あなたの手中

君の世界

君の世界から
すべて奪った

うれしいとか
楽しいとか
幸せとか
奪った

それでも君は
笑っていたから
今度は
苦しみとか
悲しみとか
不幸とか
奪った

君の世界からは
すべて奪ったんだ

君には何にもない

なのにどうして
まだ笑えるの

「何もなくしてないのよ」

「奪われても」

「これは」

「交換だから」

笑うしかないね
奪ったと思っていたら
僕も奪われていたなんて

笑うしかないね
君の幸せが僕ので
僕の幸せが君ので
不幸もまた
同じで

笑うしかないね
お互いに奪ったもの
ランタンの明かりにかざして
意外ときれいな世界だねって

笑うしかないね

目印

この先
どこか他の星で会ったら
この傷跡を
目印にしてね

いつ巡り会っても
私だってわかるよう

傷跡が消えないように
何度も
何度も
切りつけるから

目印見つけて
探しにきてね

破壊衝動

破壊衝動！
破壊衝動！

高層ビル
駆けのぼって
地球めがけて
スーパー
スペシャルパンチだ
喰らえ

ドーン！

愛なんて狂気で

愛なんて狂気だと思う

その感情の為に

正常な思考ができなくなる

愛なんて狂気だと思う

その感情の為に

何でもできそうな

幻想ばかり見える

ねえ愛なんて狂気でしょう？

こんな血に濡れた手になっても

あなたを抱き締めたいなんて

ねえ逃げないで

この愛をくれたのはあなた

この狂気をくれたのはあなた

逃げようとして
ひっ掴んだ
髪の毛匂いに
欲情

かわいい声で
叫んでみせて

暴れまわって
流した
汗の匂いに
欲情

無意味って言葉
嫌になるくらい
刷り込んであげる

絶望の末流した
涙の味に
欲情

きらきらきれいな
君が壊れてく

きれいなものを
汚すのが好き

きれいなものを
壊すのが好き

自殺者支援

自殺者支援制度を
作っではいかがか？

自殺したい者は
申請によって

無料で安楽死させてもらえる

そのかわり

臓器はすべて

移植に使われるのだ

死にたいものが
安心して死に

生きたいものが
たくさん助かる

なぜこの制度が
できないのだろう

倫理？

君がその倫理を
振りかざしている間に
どれだけの人が
苦しんでいると想う
それは倫理に
ひっかからないのかい？

痛恥ずかしい青春のアレ

死ぬとか
殺すとか

慰めの言葉なんていらないの

この痛みを

わかりもしないくせに

おざなりの慰めなんて

欲しくない

この痛みを

私の大切な

私だけの痛みを

わかった顔で

共有しようとししないで

おめでとう

「おめでとう」

その言葉の裏に

どれだけの嫉妬が
隠されているのか
そう考えると
余計嬉しくなるよ

「おめでとう」

「ありがとう！」

+++

食べて

たった一発の

銃弾で

この心臓は

撃ち抜かれた

どうか食べてね

撃ち抜いておいて

捨て置くなんて

しないで

食べて

どうか

食べて

骨まで

しゃぶり尽くすくらい

食べて

終末はどうしようか

ねえ

終末は

どうやって過ごす？

家族に囲まれて

眠るようにとか

ポツクリと

なんて

そうはうまくいかないよ

眠っているうちに

天変地異やなんかで

即死つてのも

なかなか出会える

奇跡じゃないね

痛くない

苦しまない

幸せな

終末って

難しいもんだね

ねえ

終末はどうやって過ごす？

できれば君と
一緒がいいな

D o n ' t d i s t u r b

夢の中ならあたし
綺麗なお姫様になれる

D o n ' t d i s t u r b
D o n ' t d i s t u r b

夢の中なら
イかれた連続殺人者でも
けして死なない
被害者にも

D o n ' t d i s t u r b
D o n ' t d i s t u r b

どうか目覚めない夢を
起こさないで

D o n ' t d i s t u r b !

バイ菌バイ菌

てめえ俺を

「バイ菌」つつつたな？

待てよ！

ほらほら

バイ菌がお前の手を
掴んでいるぞ

バイ菌に羽交い締め
に
されているぞ

バイ菌に

キスされてるぞ

バイ菌はさらに

をする気だ！

ほらほら

俺はバイ菌なんだろ

だったらお前は

バイ菌移された奴だ

お前もバイ菌だ

バイ菌仲間だやっほう！

やーい

バイ菌！

バイ菌！

バイ菌！！！！

逆上がり

青空を

蹴飛ばしたくて

逆上がり

憎らしいほど

晴れ上がった空

足下

足下ばかり見る

下に何人いるかだけを見る

上を見ると

腹がたつて

虚しくて

悲しくなるから

足下ばかりを見る

自分未満のものだけを見る

未来

未だに來ざるものに
どうして皆

そんなに期待できる？

根拠なんてない
オプティミスト

信じられるわけが

未だ來ざるものを
怖れる私は
あなた方より
賢明

根拠なんてない
ペシミスト

賢いと
思ってる

いつまで

いつまで
いつまで

笑い続ければいい

いつまで
いつまで
いつまで
いつまで

よ 疲れた

君までトリップ

ばっちらりと

キメていこうぜ

さよなら

いいトリップを

バッドトリップは
ごめんだね

それじゃあ

トベ!

トベ!

トベ!

トベ!

トベ!

トベ!

君のところまで
トンだけ
トリップ

キマっただろ?

隣を歩く幸せ

隣を歩く

幸せを

胸に刻んで

おきましよう

私が歩けなくなったら

私を背負ったりしないで

私を置いて

進んで欲しい

隣を歩く

幸せを

忘れずにおこう

あなたが遠ざかる靴音を

聞くその日まで

束の間の

人体愉快

人の体というものは
なかなか面白いもので

あんなに憎くて
殺したあなたの
楽しかった

出来事ばかり
思い出されるのです

脳が罪をあがなえと

ひどく奇妙な気がします

どうも滑稽な気がします

アニバーサリー

カレンダー
紅く印を
つけた日は
あなたに殺意を
覚えた日

火の鳥

この想いは火の鳥
未だ熱く燃え続ける

この想いは火の鳥
燃え尽きてしまえば
甦ることが
できるといふのに

まだ燃えていたい火の鳥
この身が焼き付く苦しみも
まだ手放せない

まだ燃えていたい火の鳥

あなたへの想い

この想いは火の鳥

眼鏡

眼鏡に跡がつくから

泣くのは嫌だよ

眼鏡をはずしたら

ただでさえぼやける視界が

涙でさらに

ぼやけて見えた

不鮮明な世界に

滲んで

消えたい

ヤマアラシのジレンマ

近づいたら

針がささるとか

離れると寒いとか

関係ないよ

僕は一人

丸まって

外に武器を向けながら
暖まる

一人でも僕は

暖かい

プレゼント

贈り物をしよう

大好きなあなたに

骨も内臓も

潰れるくらい

身動きなんて

できないくらい

重い

重い

重い

プレゼント

受け取ってね

大好きよ

行く道

狂気笑うな
行く道だから

老いれば君も
行く道だから

ある日突然
落ちる道だから

狂気笑うな
行く道だから

癒えぬ傷

あんまり多すぎて
もう自分でつけたのか
他人につけられたのか
わからない
傷

塞がりそうになるたび

自ら開いて
血を流させるから
いつまでたっても
治らない

いつか膿んで
腐ってしまえばいい

治す気なんてないの
致命傷になる日を
その日を
待つ

エンドロール

殺してくれるなら
あなたがいいなあ

銀幕に映し出される

「THE END」

書いてくれるなら
あなたがいいなあ

リトルプリンセス

ねえパパ
あなたの大事な私を
傷物にしたくって
耳朶に貫通式

ねえパパ
あなたの大切な私を
傷物にしたくって
あの男の前で
足を開く

ちよつと痛かったけど
とても愉快だわ
あなたの嘆く顔
目に浮かぶから

ねえパパ私もう

あなたのかわいい
お姫様じゃないのよ

だからその手で
触れないで

+++

ヒューズ

負荷が
大きすぎる

僕の頭のヒューズが
弾け飛びそうだ

負荷が
負荷が
重すぎる

助けて
誰か
弾け飛んだら
真っ暗闇に
落ちてしまう

負荷を与えないで
ヒューズが
ヒューズが

キレそうだ

嘆

ああ世界

愛し

憎し

すべてを愛することもできず
すべてを憎むこともできず

ああ世界

愛し

憎し

その刃

振り下ろせ

真二つに

切り分ける

そなたを愛する私と
そなたを憎む私と

君の嵐

訳もなく

唐突に

まきおこる

君の中の嵐

ずぶ濡れで

大変だねって

傘差し出したら

そんなのじゃ

この嵐が

防げるわけないって

怒られた

じゃあ隣で

一緒に濡れてるって言ったら

余計なお世話って

また怒られる

まあそう言わないで

わりと気に入っているんだ

君の嵐は

壮絶で美しい

うん

ごめんね

所詮

他人事だからさ

風葬の墓標

死ぬなら

草木茂る

地面の上で

息絶えた肉体は

獣や鳥や虫たちに

ついまれ

残った部分は

腐敗し

微生物に

分解される

有機物から無機物へ

食物連鎖に巻き込まれる

地球に取り込まれる

世界になる

墓石は

いらぬ

骸骨が

私がいちことを
示す

走れ

走っても
走っても
この手は
あなたに
届かない

それでも
走ることを
止められない

泳ぎを止めたら
息ができない
回遊魚みたいに

この足を止めたら
きつと
この息も止まる

走るしかないんだ

走り続けるしかないんだ

不公平だよ

どうして

あの子は

あの子なの

どうして

私は

私なの

諸悪の根元

誰も悪くない

きつと

誰も悪くない

そういうことに

過剰に反応する

私が悪い

私がおかしいのが悪い

心配ないさ

明日を心配しなくていいよ

きつと

明日も

明後日も

その先ずつとも

「悪い日」「しか

こないからさ

今までだって
そうだったろう？

「いい日」だと思ったら
すぐ足元は崩れる

もう決まっているんだよ

明日を心配することないよ
どうせ「悪い日」しかこない

はなから諦めてりゃ
楽なものさ
そうだろう？

そう思う

「死ねばいい」
「

って
思っていない

「殺されたらいい」
って
思ってる

「殺せたらいい」
って
思ってる

トマトのうた

トマト
トマト
真っ赤な
トマト

トマト
不恰好な
トマト

弾ける
トマト

真っ赤な汁飛ばして
トマト

その首についている
トマト

ぶち割っていいか
トマト

トマト
トマト
トマト

御不浄

をんなは
不浄の
ものなのよ

アンタは汚した
つもりでも

穢れたのは
アンタの方

をんなは
不浄の
ものなんだよ

穢れた血が
まとわり着いただろ？

贈るコトバ

先生
おひさしぶりです

私が誰かなんて
どうでもいいじゃないですか

あなたの長い教師人生の中で
出会った生徒の一人です

噂を聞いたので
連絡してみました

あなた
まだ教師をしているんですね

私
あなたに教わったこと
忘れていません

理不尽な暴言
「連帯責任」の名のもとに
行われた体罰

卒業して何年たっても
忘れることができません

先生
まだ先生なんかやってるんですか

いい加減にしたらどうですか

黒い鳥

君が秘密を
持った時
足元から
黒い鳥が飛び立つ

黒い鳥はふれ回る
影で
暗い所で

その身を隠して

そして
君の秘密は
いつの間に
皆が共有する
データと化す

君が秘密を

持った時
黒い鳥が飛ぶ

君が知らぬ間に

伝言歌

あなたのいなくなった部屋で
あなたが好きだった歌
聴いています

ヘッドフォンが
壊れるほどの
シャウト

「死んでしまえ」

あたしへの伝言だって
ようやく気づきました

頭の悪い子で
ごめんなさい

そして僕は進化する。

このまま
何もせず
ベッドに横たわり続けたら

爪も
髪も
伸び続けて

昔
神話で見た
怪物になれそうな
気がするんだ

なるごとく想うんだ

雨に嘆けば

雨です

濡れるのは
慣れていきます

運が悪いと
嘆く姿も
さまになるでしょう？

どしゃ降りです

濡れるのは
慣れていきます

嘆く姿

さまになるでしょう？

どうか

どうか

強がりだと

見抜かないで

鈍感な奴だと

笑わせて

ずぶ濡れでも

勝った気でいさせて

刺と刃

あなたの

刺のある言葉で

傷つけようとしたって

無駄

ただ
ひどく
煩わしい

私には
もつと鋭い言葉の刃で
斬り殺すことも
できるのだから

できるのだから

ありがとう

幸せなんて
教えられなかったら
不幸なんて
知ることはなかった

愛されてるって

想わされなければ
愛されない辛さ
感じることもなかった

恨んでいるよ
みんなあなたのせい

幸せも愛も
要らなかったよ

とても苦しかった

だけど
おかげでこの世界に
見切りをつけることができた

やっと
やっと
消える気になれた

それじゃあ
さようなら

幸せだった

愛していた

恨んでいた

感謝していた

ありがとう

おしまいに

街の片隅にある寂しげな空き地、そこに一つの意味ありげな石が置いてある。その前に一人の青年が立っていた。子犬をつれて散歩にきた少女が、なんとなく気になって話しかける。

「お兄さん、そこで何をしているの」

「やお嬢さん。ここにはね、詩ウタイの墓があるんですよ。知っていましたか？」

「ウタウタイ？」

小首を傾げる少女に青年は微笑みながら答える。

「『詩人』というのが普通なんでしようけどね。あの子はそれを嫌いました。『私は人デナシだから』と笑っていましたよ」

少女はよくわからないという顔をした。

「まあ、わからないでしょうね。わからないなら別にいいのですよ。わかる人だけわかればいいのです。さあ、作業を続けますか。何をしているかと聞きましたね？」

「ええ」

「あの子が残していった詩を探しているのですよ。どこかで見たら教えてください。あの子の詩をまだ必要としてくれている人がいるようなのでね。不思議なことに」

詩ウタイの墓は「余計なことを」「とも」「うるさい」「とも言つこと
がでさず、ただそこにあるしかできなかつた。

詩ウタイが幸せだつたか
それとも不幸だつたのか

それは誰にもわかりませすまい

きつと詩ウタイ自身にも

ただあの子が最後に言つた言葉は

「ありがとう」

だつた

それだけは事実なのです

その心に届いたならきつと本望

ありがとう

ありがとう

ありがとう……

そして、それから

「やあ。あの子の詩を本にしたんだって？」

青年がもう一人の青年に語りかける。

「言っちゃなんだが、そんな行為に意味はあるのかい」

「……わかっています。これはただの僕の自己満足。ただあの子がいたことを、どうしても形にして残して置きたかったのです」

「まあ好きにすればいいさ……ただ君が探しているというから僕もあの子の詩を集めていたのだよ。本が出来上がってしまったなら無意味だったかな」

「いえ、まだあるのですしたら是非教えてください。僕の頭の中に入れておくので」

片一方の青年は鞆を探ると書類の束を差し出した。

「そら。これで満足かい」

「ありがとうございます。あの……一つ尋ねてもいいですか」

「なんだい」

「あなたもあの子を愛していたのではないですか」

問われた青年は薄く笑いを浮かべ、

「さあね」

とだけ答えた。

【奇妙な病】

雑音を越えて
耳を澄ます

君の声が聞きたいよ

この世の終わり
詩イ続ける
奇病のような

君の声が聞きたいよ

優しく殺してくれる
あの声が聞きたいよ

【晴天の願い】

ああこんなにも
気持ちよく
晴れ上がった
空の日は

あの人が死んでいるといい
あの人死んでいるといい

【煩雑マイルーム】

荒れ果てた部屋
片付ける気力なんかなくて
目眩に悩まされながら
埋もれて見当たらない
無くした心探してる

ようやく見つけたと思ったら
それは優しくない心ばかり

優しさは

日々の雑多な感情に隠れてきつと二度と
見つからない

【反芻】

うるさい

愛してくれなくていい

苛立ちはいつまでたっても
飲み込めやしなくて

吐き出しては
咀嚼を繰り返す

反芻しても消化できない
このいらだち

でも

飲み込まなきゃ
飲み込まなきゃ
飲み込まなきゃ

【爆破娘】

はっぱだよ
葉っぱじゃないよ
発破だよ
あたし危ない
ダイナマイト

【内に秘めたる情熱の色】

青白い皮膚
切り裂けば
意外にも
私の中は
鮮やかな紅で
満たされていた
君にも見せたいな
燃え立つようなこの紅

【お料理万歳】

今日は
サイコロステーキよ
あなた

肉料理を作るときは
あなたのことを想います

切り刻む感覚を

あなたは肉料理が好きね
よかった
毎日肉料理でも
飽きないものね

肉料理を作るときは
あなたを想って作ります
心を込めて作ります
心を込めて切り刻みます

【今日時計が死にました】

目が覚めた

10時半

カーテン閉め切った部屋じゃ
朝か夜かわからない

どうせそんなことは

どうでもいい

また眠るだけ

世間と私は

関係ないもの

時計が

自分の存在価値の無さを嘆いて
自殺をはかった

私は止めなかった

私はやさしいから

【ナビゲーション、ユウ】

カーナビの音が響く

ルートを外れました

うるさいわね

わかってるわよ

ルートを外れました

うるさい

そうよいつだってそう

あの時あの選択をしなければ

ルートを外れました

問5でアを選んでいれば

ルートを外れました

私なら平気なんて言わなければ

ルートを外れました

嘘をつき通せていたら

ルートを

うるさいっていつてるでしょ！

このまま

あんななんか無視して

あんだこと

海に飛び込んでやる

ルートをはずれました

必死ね

でも

もう

遅いわ

【美しい言葉】

痛み

悲しみ

安らぎ

すべてが

このたった一文字に

込められている

死

世界一短くて

世界一詩的な言葉

死

美しい言葉

死

【せいぎのみかた】

窮地に立たされた時
そこには

「正義の味方」

があらわれる

子供のころから

アニメやなんかで

散々吹き込まれた事

ねえ

今私は

こんなにピンチだつてのに

「正義の味方」が現れないのは
やはり私が

「正義」では

ないからなんでしょうね

だつていつも

「皆死んじゃえ」

つて想つてる

自業自得

誰も助けてくれやしない

「正義の味方」は

正義にしか味方しない

自業自得

仕方ない事なんだろう

「正義の味方」はとても狭量

【興味ない】

テレビに夢中になれなくなった

ゲーム機も

今はほこりをかぶってる

ネットの世界にも

嫌気がさしてきた

世界がどんどん

どうでもよくなっている

お願い

手を離して

もういいんだ

こんなところ

どうだって

こんな世界興味ないんだ

いなくならせて

【私はとてもよく驚きます】

新しいことをさせられるたび
無能な私に気づかされ
自分の不必要さに
改めて驚いてしまうのです

【穴穴穴穴】

君の体には
無数の穴が開いている
そこから汗やなんかを
流したりする

僕の体も
穴が開いている
ことあるごとに
刺し抉った穴

僕の体には穴が開いている
見えない血が
いつも吹き出している

君の体は穴だらけ
僕の体も穴だらけ

【お別れの挨拶】

この場から
去り行くあなた
お別れに
「死ね」と一言
言いたかった

【ママがサンタに×××】

サンタクローズが
殺害された

赤い衣装を
赤黒く染めて

サンタクローズが
殺害された

七面鳥みたいに
切り裂かれた

だけどその
サンタクローズを殺したのは

ママ

【産まれてからずっと後悔している】

あの時
死ねばよかったのに
死んでいればよかったのに

生き長らえてしまった

浅ましい
浅ましい

【ベルベット・ルーム】

この暗闇から救い出してくれる
救世主なんていないって
嫌ってほど思い知ったから

この暗闇を
いかに快適に過ごすかを
考えた

あたしはベルベットの生地を
山ほど買い込んで
部屋中に敷き詰めた

こんな闇の中だから
優しいものに触れていたい

この暗闇の中では
ベルベットの柔らかな
肌触りだけが確かなもの

闇が明けないことを
受け入れて
諦めて

ベルベットにくるまるの

胎内の記憶に
似ている気がするの

【本当のことなんて叫べない】

「あなたなんていらなの」

「私は私の傷ぐらい
自分で治せるのだから」

「私は
弱くなんか無いんだから」

血塗れで必死の
君の台詞

「助けて」

にしか
聞こえないよ

【制服の死刑囚】

学校へ
向かう足取り
その重さ
死刑台に
向かうが如く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9479h/>

詩イ殺ス。

2011年6月26日20時57分発行